

神社佛寺共古來所傳之什物等處分之儀明治六年七月第二百四十九號公布之趣旨ニ付テハ持添之田畑山林並寄附金又ハ古文書共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相違候事

◎山林ノ處分ノ意義

明治九年教部省第三號達ニ所謂山林ノ處分トハ山林ノ地盤ト其上ニ存スル立木立竹ト併セテ處分スル場合ハ勿論單ニ地盤ノ上ニ存スル立木立竹ノミテ處分スル場合ヲモ包含スルモノトス (大審四〇年民九三四頁)

◎社寺有不動産讓渡ノ要件

一 明治九年教部省第三號達ニ所謂田畑山林ハ不動産ヲ例示シタルニ過キサレハ社寺有市街宅地ノ如キモ之ニ包含スルモノトス從テ社寺有ノ不動産ヲ讓渡スニ當リテハ單ニ氏子檀家總代ノ同意アルヲ以テ足レリトセス尙ホ所轄官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ必要トシ其認可ヲ得サル賣買ハ法律上何等ノ效力ヲ有セサルモノトス (大審三九年民三二二頁)

二 明治九年教部省達第三號中ニ「持添ノ田畑山林」トアルハ社寺ニ別段ノ由緒アル地所ト云フカ如キ特種ノモノヲ指スニ非スシテ社寺所有ノ一切ノ田畑山林ヲ謂フモノトス (審大大正二年)

明治十年布告第四十三號

神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺附地所(除稅地ヲ除クノ外)建物什器(寶物古文書類ヲ除クノ外)等ヲ抵當トナストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ此連署ナキトキハ總代該社寺神宮僧侶ノ私債ト看做シ總令右ノ抵當アルモ其效ナキモノト爲スヘシ

◎本布告ノ法意及適用

- 一 明治十年第四十三號布告ハ社寺ノ爲メ金穀ヲ借入レ又ハ金穀借入ノ爲メ其附屬地等ヲ抵當ト爲シ債務ヲ負擔スルトキハ勿論其名義ノ如何ヲ問ハス社寺ノ爲メニ債務ヲ負擔スル場合ニハ神官僧侶ノミニテ其法律行爲ヲ爲スコトヲ許サス必スヤ氏子總代若クハ檀家總代ト協議シ其總代二名以上ノ連署ヲ要スルモノトシ若シ此連署ナクハ總代社寺ノ負債ト爲ササル趣意ナリトス (大審三七年民一一四頁)
- 二 明治十年太政官布告第四十三號ニ所謂「氏子檀家ト協議シ總

諸法令下 (メ) 明治十年布告第四三號

明治十年布告第二十二號

- ◎犯罪ノ搜查ニ關スル死體ノ解剖 (刑訴四八頁)
- ◎變死屍體ノ解剖ヲ命スル權限 (續刑法四六六頁)
- ◎死體ノ解剖ニ依ル鑑定 (刑訴法一二三頁)
- ◎司法警察官ノ死體檢案手續 (刑訴法五〇頁)

◎搜查處分ト墳墓ノ發掘

- 一 非現行犯ノ場合ト雖モ犯罪ノ搜查上必要ナルトキハ檢事ハ持主ノ承諾ヲ得テ墳墓ヲ發掘シ死體ヲ檢スルノ職權アルモノトス (大審四〇年刑一三二五頁)
- 二 埋葬後ノ死體ヲ解剖スル必要アルトキハ檢事ハ墳墓所有者ノ承諾ヲ得テ發掘ノ上之ヲ解剖セシムルコトヲ得ルモノトス (法曹會決議評論一〇卷刑訴二頁)

◎死體發掘ノ違法ト解剖檢案書ノ效力

死體發掘手續ノ違法アリトスル明治十年太政官布告第二十二號ニ依リテ作成セラレタル死體解剖檢案書ハ有效ニシテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供ハルヲ得 (大審一二年刑六四〇頁)

- 代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ」トハ氏子總代又ハ檀家總代ト協議シ其二名以上ノ同意ヲ得レハ足ルノ旨趣ニシテ況ク氏子又ハ檀家トノ協議ヲ社寺ノ債務成立ノ要件ト爲スモノニ非ス一本書告ニ總代二名以上ノ連署トアルハ總代二名以上ノ同意ノ意義ヲ有スルニ過キスシテ寺債ヲ以テ要式行爲ト爲シタルモノニ非ス (大審大正四年民一一二六頁)
- 三 明治十年太政官布告第四十三號ハ神社並寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入レ其他債務ヲ負擔スルニ付テハ神官僧侶ノミニテ法律行爲ヲ爲スコトヲ許サス必スヤ氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ同意アルコトヲ要スル旨趣ニシテ必スシモ各行爲ニ付キ證書ヲ作成シ又ハ總代力其證書ニ連署スヘキ形式ヲ要スルモノニ非ス (大審四二年民一三九頁)
- 四 明治十年布告第四十三號ノ規定ハ社寺カ金穀ノ消費貸借ヲ爲ス場合ニノミ適用スヘキモノニ非スシテ其金穀ノ給付目的トスル他ノ債務ヲ負擔スヘキ場合ニモ亦均シク之ヲ適用スルコトヲ要ス (大審三八年民一三九五頁)
- 五 明治十年布告第四十三號ハ神社又ハ寺院カ獨リ金穀ノ借入ヲ爲ス場合ノミニ限ラス尙モ債務負擔ノ契約ヲ爲ス場合ニハ總代之ヲ適用スヘキモノトス而シテ其債務ノ履行ヲ將來多分ノ財產ヲ得タル時ニ於テスルト否トハ問フ所ニ非ス (大審四三年民六六〇頁)
- 六 此規定ハ獨リ金穀ノ借入ヲ爲ス場合ニ限ラス神社若クハ寺院

ノ爲メニ債務負擔ノ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ悉ク其適用アルモ
ノナレハ寺院カ家屋ノ賃貸竝ニ家賃取立ノ委任契約ヲ爲ス場合
ニ於テモ齊シク檀家總代ノ連署ヲ要スル法意ナリトス(東京控
四一年法四七九號六頁)

◎社寺ノ法律行為ト其要件(續民法七五三頁)

七 僧侶カ寺院ノ爲メ其檀家總代二名以上ノ連署ヲ經スシテ株式
ノ申込ヲ爲スモ該申込ハ寺院ニ對シ何等ノ效力ヲ生スルモノニ
非ス(東京地四三年法六四〇號一頁)

◎寺院ト未拂株取得ノ要件(續民法七五三頁、同旨商法五五頁)

八 出訴期限經過後ノ債務ヲ承認スルハ新債務ヲ成立セシムルト
同一ノ結果ニ歸著シ單純ナル管理行為ト同視スヘキモノニ非サ
ルカ故ニ寺院カ此承認ヲ爲ス場合ハ明治十年第四十三號布告ニ
準據スヘキモノトス(大審三〇年民三卷七〇頁)

九 明治十年布告第四十三號ハ社寺ニ於テ債務ヲ起ス場合及ヒ其
地所建物若クハ什器ヲ抵當ト爲ス場合ノ規定ニシテ社寺ニ屬ス
ル權利ノ行使ニ關スル社寺ノ代表資格ヲ定ムルモノニ非ス(大
審二八年民五卷四八頁、同旨二八年民三卷一三七頁)

一〇 明治十年第四十三號布告ハ社寺ト氏子檀家トノ内部ノ關係ノ
規定シタルモノニ止マレハ寺院ノ代表者タル住職カ其寺院ヲ代
表シテ檀家總代ノ連署ヲ以テ善意ノ第三者ヨリ金穀ヲ借入ルル
場合ニ適用スヘキモノニ非ス(大審三五年民四卷一〇〇頁)

一一 本布告ニ所謂住職ニ於テ檀家ト協議スヘキ旨ノ規定ハ寺院ト
入テ爲スヲ禁シタルモノニシテ此目的ヲ達スルニ付テハ多數ノ
氏子檀家ト一々協議シ其同意ヲ得ルカ如キハ煩ニ耐ヘス且格段
ノ效用ヲモ有セサルヲ以テ同布告ニ「氏子檀家ト協議シ總代二
名以上ノ連署ヲ要スヘシ」トアルハ氏子總代又ハ檀家總代ト協
議シ其二名以上ノ同意ヲ得レハ足ルノ精神ナリト解セサルヘカ
ス(大審大正四年法一〇〇四號三一五頁)

◎檀家ナキ寺院ノ貸借行為

一 社寺ニ於テ金穀ヲ借入レ若クハ借入ルルカ爲メニ社寺附ノ地
所建物什器等ヲ擔保ニ供セントスルニ當リ氏子又ハ檀家ナキト
キハ其ノ總代タルヘキ者モ存在セサルヲ以テ該金穀借入等ノ爲
メ協議ヲ爲シ證書ニ連署セシムヘキ機關ナク從テ斯ノ如キ社寺
ハ右ノ法律行為ヲ有效ニ行フコト能ハス而シテ寺ニ檀家ナキ場
合ニ法類ヲ以テ之ニ代フルコト得ルカ如キ例外ノ規定ナシ
(大審三七年二月二十四日言渡民二〇七頁、同旨大審四〇年民
五六五頁)

二 按スルニ檀家ナキ寺院ノ住職カ信徒總代ノ連署ヲ以テ貸借ヲ
爲スハ寺借トシテ有效ニシテ明治十年布告第四十三號ニ依リ住
職ノ私債ト看做スヘキモノニアラサルコトハ當院判例ノ存スル
所ナリ(明治四十年二月十四日第一民事部判決)蓋シ寺院ハ法
人タル實質ヲ具有シ適法ノ代表機關ヲ以テスレハ特ニ法令ノ禁
止セサル限り通常法人ノ爲シ得ヘキ法律行為ハ總テ之ヲ爲ス能

檀家トノ内部ノ關係ヲ規定シタルニ過キサレモノナルカ故ニ寺
院ノ代表者タル住職カ其寺院ヲ代表シ檀家總代ノ連署ヲ以テ第
三者ヨリ金員ヲ借入ルル場合ニ於テハ特ニ其第三者カ右内部ノ
事情ヲ知悉セル場合ヲ除キ之カ適用ヲ見ルヘキモノニアラス
(東京地大正三年評論三卷諸法七六頁)

二 明治十年第四十三號布告ニ所謂檀家ト協議スヘキ規定ノ趣旨
ハ寺院ハ檀家トノ内部關係ヲ規定シタルニ過キサレハ縱令檀家
トノ協議無カリシトスルモ外部關係貸借ヲモ無効トスルヲ得ス
(東京控三五年法一〇四號六頁)

三 事實上寺院ノ信徒總代ニ選任セラレ總代トシテ寺務ニ參與ス
ル者ト雖モ所轄役場ニ届出ヲ爲スニ非サレハ法律上寺院ノ總代
タル資格ヲ有セス故ニ其者ニ於テ連署シ無檀家寺院ノ爲メニ借
財ヲ爲スハ第三者ノ信認如何ヲ問ハス明治十年第四十三號布告
ニ依リ之ヲ住職ノ私借ト看做スヘキモノニシテ寺借トシテハ無
效ナリトス(大審四二年民三〇一頁)

四 本布告ハ公布以前ノ貸借ニ適用ナキモノトス(東京地大正五
年法一一四一號二三頁)

五 檀信徒總代ノ連署ヲ要セサル場合(本布告別項)

六 北海道未開地借受人ノ義務ノ性質(明治三十二年法律第二十
六號)

七 明治十年太政官布告第四十三號ハ「社寺ノ利益ヲ保護スル目
的ヲ以テ神官僧侶カ專斷ニテ社寺ノ爲メ消費貸借又ハ抵當ノ差

力ヲ有スヘキナリ而シテ明治十年布告第四十三號カ寺院ノ貸借
ニ付キ檀家總代ノ連署ヲ要スルハ寺院ノ財産ヲ保全スル爲メ代
表者タル住職ノ私擅行為ヲ防遏シ其利益ヲ保護スル趣旨ニ出テ
タルモノナルヲ以テ檀家ナクシテ信徒ノミヲ有スル寺院カ唯リ
同一ノ保護ヲ享受セサル理由アルヘカラスシテ信徒總代ノ連署
ヲ以テ貸借ヲ爲スニ於テハ寺借トシテ有效ナルモノト謂フヘク
寺院カ檀家ヲ有スル日ヲ待チテ僅カニ法律行為ヲ爲シ得ヘキモ
ノト論スヘキモノニ非ス又寺院ノ財産ハ檀家信徒等ノ寄附ニ成
ルコト多キヲ以テ檀家ト信徒トハ其性質ニ於テ異ナル所アルモ
寺院ノ財産ヲ保全スル關係ニ於テハ彼是區別ヲ設クヘキモノニ
アラス上告論旨ニ援用スル判例(明治三十六年(オ)第六一七
號同三十七年二月二十四日判決)ハ其後變更セラレタルモノニ
シテ前示ノ判例ハ更ニ之ヲ變改スルノ要アルヲ見ス本論旨ハ執
レモ採用スルニ足ラス(大審大正二年民三三七頁、同旨大審四〇
年民一一二頁)

三 明治十年五月十六日太政官布告第四十三號ニ寺院カ債務負擔
ノ契約ヲ爲スニハ檀家總代二名以上ノ連署ヲ要スル旨ノ規定ア
リ而シテ右規定ハ檀家ナキ寺院ニモ其適用アルヲ以テ斯ル寺院
カ總代ノ連署ナクシテ爲シタル契約ハ住職一個人ノ債務ト見做
サルヘキモノトス(大阪控四三年法七〇四號二四頁)

◎氏子檀家總代ノ連署ノ性質

一 檀家總代二名以上ノ署名ニ依ル同意ハ僧侶ニ於テ之ヲ得テ以テ自己ノ權限ノ不足ヲ補充シ完全ナル權限アルニ至ラシムルモノニシテ僧侶ニ對スル意思表示ナリトス（東京控大正二年評論ニ卷諸法一六頁）

二 布告第四十三號ニ所謂總代ノ連署ハ神官僧侶カ社寺ノ爲メ債務ヲ負擔スル行爲ニ付テノ同意ト解スヘキモノニシテ其同意ハ社寺代表者ノ權限ノ不足ヲ補充スルモノナレハ神官僧侶ニ對スル意思表示ニ外ナラス（大審大正三年民七七八頁）

◎布告末文ノ私債ト看做スノ意義

一 連署ナキトキハ總テ社寺神官僧侶ノ私債ト看做ストアルハ社寺ニ對シテ效力ナキ行爲カ神官僧侶ニ對シテ效力ヲ生スル義ニアラスシテ其ノ效力ナキ行爲ニ付キ神官僧侶ニシテ相手方ニ對シ責ニ任セシムル法意ナリト解セサルヲ得ス（東京二年法八六八號二五頁）

二 明治十年太政官布告第四十三號「此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ」トアルハ之レ社寺ノ名ニ於テ爲シタル債務負擔ノ行爲カ神官僧侶ニ對シテ其效力ヲ生ストノ意ナリヤ將タ社寺ノ爲メ效力ヲ生セザリシ結果ニ付キ神官僧侶ヲシテ其實ニ任セシムルノ意ナリヤハ布告自體ノ文理トシテハ明瞭ナラスト雖モ該布告カ一方ニ於テハ神官僧侶ノ專斷ヲ嫌メ以テ社寺ノ利益ヲ保護スルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ社寺ニ對シテ

效力ヲ生セザリシ行爲ニ付キ神官僧侶ト取引ヲ爲シタル相手方ノ利益ヲ保護セントスル趣意ヲ以テ制定セラレタルモノナルコトハ疑ナク容レサル所ナルカ故ニ此趣意ヨリ論スルトキハ布告ニ所謂私債ト看做スト云フハ是レ即チ社寺ノ名ニ於テ爲シタル債務負擔ノ行爲ニ付キ神官僧侶ヲシテ責ニ任セシムル趣意ナリト解スルチ正當トスヘシ之ヲ民法ノ文言ヲ以テ説明スルトキハ第百條ニ所謂自己ノ爲メニ之ヲ爲シタルモノト看做ストノ趣意ニ非サルハ勿論第百十七條ニ所謂相手方ノ選擇ニ從ヒ履行又ハ損害賠償ノ責ニ任ストノ趣意ニモ非ス蓋シ布告ニハ單ニ私債ト看做ストアリテ相手方ヲシテ選擇セシムルコトナケレハナリ要スルニ布告ニ私債ト看做ストアルハ民法第百十七條ニ所謂損害賠償ノ責ニ任スト同意ニ之ヲ解スルチ妥當トス（東京地大正二年法八五三號二頁）

三 次項「社寺ノ負債ト後日ノ追認」ノ二

◎社寺ノ負債ト後日ノ追認

一 氏子檀家總代ノ同意ハ社寺有ノ不動産ヲ賣却シ又ハ之ニ對シ抵當權ヲ設定スル等處分行爲ノ當時ニ於テ爲サレタルコトヲ要セス後日ニ至リ同意アリタル場合モ右處分ハ社寺ニ對シ法律上完全ニ其效力アルモノトス（名古屋控大正五年最一八卷二五五頁、同官長野地法一一九一號二七頁）

二 總代ノ同意ハ社寺ノ代表者タル神官僧侶カ社寺ノ爲メ債務負擔ノ行爲ヲ爲スノ當時ニ存スルコトヲ要スヘキコトハ該布告ノ目的トスル趣旨ニ出テタルモノナルコトヨリ推究スルトキハ總代ノ同意ハ社寺ノ代表者ノ行爲ノ後ニ存スルモノ布告ノ精神ニ反スルモノト云フコトヲ得ス如何トナレハ代表者カ債務負擔ノ行爲ヲ爲シタル後ニ於テ總代カ之ヲ不適當ナリトスレハ同意ヲ與ヘサルヘク適當ナリトスレハ同意ヲ與フヘク以テ社寺ノ財產保護ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘケレハナリ或ハ該布告末段ニ於テ總代ノ連署ナキトキハ神官僧侶ノ私債ト看做スヘキコトノ規定ヨリスレハ代表者ノ行爲當時ニ於テ總代ノ同意ナカリシトキハ其債務ハ神官僧侶ノ私債ト確定シ後日總代ノ同意アルモ變シテ社寺ノ債務ト爲ルヘキニ非サルカ如シト雖該規定ハ總代ノ同意ナキ爲メ社寺ノ債務トシテ效力ヲ生セサル場合ニ限リ債權者保護ノ爲メ神官僧侶ノ私債トシテ效力ヲ生セシムル趣旨ト解スヘキモノニシテ該規定ノ爲メニ代表者ノ行爲以後ニ於ケル總代ノ同意ヲ許ササルモノト爲スチ得ス要スルニ該布告ノ趣旨ハ社寺ノ代表者タル神官僧侶カ氏子檀家總代ノ同意ヲ得スシテ社寺ノ爲メ債務負擔ノ行爲ヲ爲シ後日ニ至ルモ總代ノ同意ナキトキハ社寺ノ債務トシテ效力ヲ生スルコトナク行爲者タル神官僧侶ノ私債ト爲ルモ同意ノ有無確定セサル間ハ債權者ハ神官僧侶ノ私債トシテ債權ヲ主張スルコトヲ得ルニ止リ社寺ノ債務ト爲ルヤ否ヤハ浮動ノ狀態ニ在ルモノト云フヘク之ニ反シテ代表者タル神官僧

擔ノ行爲ヲ爲スノ當時ニ存スルコトヲ要スヘキコトハ該布告ノ明文上之ヲ看ルヘキナク却テ該布告ハ社寺ノ財產保護ノ目的トスル趣旨ニ出テタルモノナルコトヨリ推究スルトキハ總代ノ同意ハ社寺ノ代表者ノ行爲ノ後ニ存スルモノ布告ノ精神ニ反スルモノト云フコトヲ得ス如何トナレハ代表者カ債務負擔ノ行爲ヲ爲シタル後ニ於テ總代カ之ヲ不適當ナリトスレハ同意ヲ與ヘサルヘク適當ナリトスレハ同意ヲ與フヘク以テ社寺ノ財產保護ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘケレハナリ或ハ該布告末段ニ於テ總代ノ連署ナキトキハ神官僧侶ノ私債ト看做スヘキコトノ規定ヨリスレハ代表者ノ行爲當時ニ於テ總代ノ同意ナカリシトキハ其債務ハ神官僧侶ノ私債ト確定シ後日總代ノ同意アルモ變シテ社寺ノ債務ト爲ルヘキニ非サルカ如シト雖該規定ハ總代ノ同意ナキ爲メ社寺ノ債務トシテ效力ヲ生セサル場合ニ限リ債權者保護ノ爲メ神官僧侶ノ私債トシテ效力ヲ生セシムル趣旨ト解スヘキモノニシテ該規定ノ爲メニ代表者ノ行爲以後ニ於ケル總代ノ同意ヲ許ササルモノト爲スチ得ス要スルニ該布告ノ趣旨ハ社寺ノ代表者タル神官僧侶カ氏子檀家總代ノ同意ヲ得スシテ社寺ノ爲メ債務負擔ノ行爲ヲ爲シ後日ニ至ルモ總代ノ同意ナキトキハ社寺ノ債務トシテ效力ヲ生スルコトナク行爲者タル神官僧侶ノ私債ト爲ルモ同意ノ有無確定セサル間ハ債權者ハ神官僧侶ノ私債トシテ債權ヲ主張スルコトヲ得ルニ止リ社寺ノ債務ト爲ルヤ否ヤハ浮動ノ狀態ニ在ルモノト云フヘク之ニ反シテ代表者タル神官僧

◎檀家總代カ寺院ノ爲ニスル借財ノ性質

寺院ノ檀徒總代カ寺院ノ爲メニ自ラ爲シタル金圓貸借行爲ニ付キ其寺院ニ於テ之カ債務ヲ負擔スルニハ自ラ債務ノ引受ヲ爲スカ又ハ債務者ノ交替ニ依ル更改契約ヲ締結スヘキモノニシテ追認ニ依リ債務負擔ノ效力ヲ生スヘキ無權代理ノ法理ヲ以テ此關係ヲ律スルコトヲ得ス（大審大正五年民一三六二頁）

◎檀信徒總代ノ連署ヲ要セサル場合

一 社寺ノ住職カ社寺ヲ代表シテ土地ノ無償貸付チ國家ヨリ受ケル場合ハ債務ヲ負擔シ若クハ抵當ヲ設定スル場合ニ該當セサルチ以テ氏子檀信徒總代ノ連署ヲ必要トセス（東京控大正四年法一〇二四號二三頁）

二 明治三十年三月法律第二十六號北海道未開地處分法第三條ニヨリ北海道未開地ノ無償貸付チ受ケタル者ハ其土地ニ於テ開墾牧畜植樹等豫定ノ事業ヲ爲スノ權利ヲ取得スルト同時ニ又其豫定ノ事業ヲ爲スヘキ義務ヲ國ニ對シテ負擔スルモノト云フコトヲ得ヘシト雖モ其義務ハ私法上ノ債務ニ非サルコト明白ナレハ

明治十年布告第四十三號三所謂金穀借入ノ債務ニ該當セス從テ
禮家總代ノ同意ヲ要セス(大審大正五年民九六六頁)
三 寺院カ無償ニ不動產ヲ借受ケ又ハ其所有權ヲ取得スル如キハ
慣例上之ヲ有效トスルノミナラス寺院ノ財產ヲ増殖シ其基礎ヲ
確實ナラシムルコトアルヘキヲ以テ必スシモ寺院存立ノ目的ニ
背馳スルモノト云フヲ得ス(大審大正五年民九六六頁)

◎檀信徒總代ト寺院ノ代表資格

寺院ノ檀信徒總代カ明治十年布告第四十三號ニ依リテ證書ニ連
署スルハ寺院ノ代表者タル住職ノ事務執行ヲ監督スヘキ職責ア
ルニ由ルモノナレハ之ヲ以テ檀信徒總代ハ寺院ヲ代表スル權限
アリト云フヲ得ス(大審三八年民一三九五頁)

◎寺院ノ負債證書ト代表者ノ記名捺印

寺院ノ金錢借入ニ適用セラルル明治十年布告四三號ニハ別ニ寺
院代表者ノ記名捺印ヲ要スル旨趣ノ規定ナキニヨリ借用證書ニ
禮家總代二名以上ノ連署ト社寺名ノ下ニ寺印ノ捺捺アル以上ハ
當寺ノ住職ニ於テ正當ニ寺院ヲ代表シタルモノト認メ有效ニ取
扱ハルモノトス(東京控大正元年最一卷一八六頁)
◎寺院ノ代表者(續民法七五三頁)

四年民一〇卷一〇二頁)

明治十一年內務省達乙第五十七號
(社寺取扱概則)

第一條 社寺ノ創建ハ(民有地ニ建設スルモノ) 神官住職氏子檀
徒若ハ信徒ト爲ルヘキモノ(寺院ハ本寺法類トモ) 連署戸長奥
書ヲ以テ願出永續財產ノ目途且其地所建物等ノ體(社ハ本殿拜
殿寺ハ本堂庫裡) ヲ具フルモノニ限リ允許スルヲ得ヘシ再興復
舊等總テ之ニ準ス

◎本達ノ不適用

明治十一年九月內務省達乙第五十七號ノ第一條ニヨレハ寺ハ本
堂庫裡ヲ具フルモノニアラサレハ允許セラレサルコト明カナレ
トモ原審證人ノ證言ニ徵スレハ本件法性寺ナル寺院竝ニ係争庫
裡ハ同法施行以前ヨリ存在セシモノナルコトヲ察知スルニ難カ
ラサレハ本件ニハ同法ノ適用ナク其他斯カル舊來ヨリ存スル寺

諸法令下 (メ) 明治十一年內務省達乙第五十七號

明治十年司法省達第四十六號

明治八年第二百九號ノ論達後其登記ヲ怠リシ者アリト雖モ既ニ
親族近隣ノ者モ夫婦若シクハ養父子ト認メ裁判官ニ於テモ其實
アリト認ムル者ハ夫婦若クハ養父子ヲ以テ論ス可キ儀ト相心得
ヘシ

◎民法上ノ事實上ノ婚姻ノ效力(續民法一二七四頁)
◎民法施行前ノ縁組ト戸籍登錄(續民法一三〇一頁)

◎本達ノ趣旨及效力

一 明治十年司法省達丁第四十六號ハ一般司法裁判所ニ通達シタ
ルモノニシテ府使縣ニ公布セシメタルモノニ非スト雖モ其旨趣
タル明治八年太政官達第二百九號ノ意義ニ付キ太政官自ラ下シ
タル解釋ハ新ノ如キモノナルコトヲ訓示シ將來其適用ヲ一致セ
シメントシタルモノナリ(大審三五年民六卷一三九九頁)
二 民法施行以前ニ生シタル婚姻養子養女ノ取組若クハ離婚縁
等ニ付テハ明治八年太政官達第二百九號ニ關スル明治十年司法
省丁第四十六號達ハ遵由スヘキ效力ヲ有スルモノナリ(大審三

院ノ庫裡ニ對シ私有ヲ許サス又ハ其私有ノ庫裡ニ關シ自由處分
ヲ禁止シタリト見ルヘキ法規ナキ力故ニ係争庫裡ノ私有竝ニ其
實質處分ノ如キハ適法ノモノト謂ハサル可ラス(長崎控九年法
一七〇〇號一六頁)

明治十二年內務省達乙第三十九號

本年當省乙第二十二號ヲ以テ社寺寶物古文書保護之儀相達シ候
ニ付テハ今般調製スヘキ目錄中ヘ記載ノ物件ハ明治十年第四十
三號公布之通抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於
テスル抵當ハ氏子檀家協議之書面ヲ以テ一應管廳ヘ申出サセ調
査ノ上全ク寶物古文書ニアラサル分ニ限リ認可スヘシ此旨相達
候事

但目錄帳ヘ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物
等ハ寶物古文書ニ准スヘク且社寺ノ物件不得已儀有之處分候
節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年教部省第三號達書之

通心得へシ

◎本達ノ趣旨及適用

- 一 内務省明治十二年乙第三十九號同省明治十七年乙第三十七號達ハ社寺ノ所有物件中抵當ト爲スヘカラサルモノヲ保護スル旨趣ニ因ルモノナレハ其抵當物件ニシテ抵當ト爲シ得サルモノナラハ右達ノ手續ヲ履マサルモ無効ト爲ラス(大審二八年民四卷九四頁)
- 二 明治十二年内務省達乙第三十九號但書ニ「社寺ノ物件不得已儀有之處分云々」トアル内ニハ單ニ由緒アル除稅地ノ處分ノミナラス社寺一切ノ田畑山林ノ處分ヲモ包含スルモノトス(大審二八年民三八二頁、評論二卷諸法四八頁)

◎本達ニ違背シタル行爲ノ效力

明治十二年内務省乙第三十九號達ハ神官僧侶等カ私擅ニ社寺ノ物件ヲ處分スルコトヲ豫防スル爲メ府縣へ達シタルモノニシテ之ニ違背シタル行爲ハ無効トスルノ制裁ナシ故ニ神官僧侶等カ社寺ノ物件ヲ抵當ニ差入ルルニ當リ該達但書ニ從ヒ認可ヲ受ケサルモ之カ爲メ第三者ニ其效果ヲ及ホスヘキモノニアラス(大審三二年民三卷七四頁)

明治十四年内務省達乙第三十三號

各管内社寺總代人ノ儀氏子檀家中(氏子檀家ナキモノハ信徒)相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ戸長役場へ届出サセ今後該社寺ノ願届等ハ總テ連署ヲ以可爲差出且社寺取入財産ハ(田畑山林ノ所得ハ勿論寶物祈禱葬儀回向料等一切)受領物ヲ云フ)其社寺有二屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事
但神宮官國幣社ハ非此限

◎本達前段ノ旨趣

明治十四年内務省乙第三十三號達ハ社寺ノ總代人ハ滿三年毎ニ改選シ市町村役場若クハ戸長役場ニ届出テシムヘキコトヲ規定

シタルニ止マリ總代人ノ資格ハ改選ナキニ拘ハラヌ滿三年ヲ經過スレハ當然消滅スルコトヲ規定シタルモノニ非ス(大審三五二年民四卷一〇〇頁)

◎本達ノ願届等ノ意義

明治十四年内務省乙第三十三號達ハ行政ニ關スル願届書等ヲ稱スルモノニシテ司法裁判所ノ訴訟行爲ハ之ニ包含セス(東京控四四年最九卷三二頁、同旨大審三〇年民七卷一九頁、大審二八年民五卷四八頁)

◎社寺總代タルノ要件

- 一 神社總代ハ氏子ノ選舉スル所ニシテ之ヲ當該役場ニ届出ツルニヨリ其資格ヲ得ルモノト解スヘク當該市町村長カ右選舉及届出ノ外其資格ヲ審查シ之ヲ公認スル行政處分ニヨリテ總代タルノ資格ヲ得ルモノト解スルヲ得ス(東京控四四年最八卷一五〇頁)
- 二 住職ヨリ總代タランコトヲ求メラレ之ヲ承諾スルモ檀家中ヨリ總代ト選ハレタル事實ナキトキハ檀家總代ト云フコトヲ得ス(東京控大正五年法一一五七號二六頁)
- 三 神社ノ氏子總代ハ氏子中相當ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スル者三名以上ヲ選ヒ戸長役場ニ届出ヘキモノナルコトハ明治十四年内務省乙第三十三號ノ定ムル所ナリ而シテ其届出ハ神社ノ願届書

諸法令下 (メ) 明治十四年内務省達乙第三三號

ニ連署シテ差出サシムル爲メナルコトハ明文ノ示ス所ナルヲ以テ之ニ因リテ氏子總代タルコトヲ公認シ届濟ノ者ニ非サレハ法律上神社ノ總代タル資格ヲ有セサルモノト解釋スルヲ穩當トス(東京控大正二年法八八三號二四頁)

◎總代選舉ノ手續違法ト其ノ效果

社寺ノ檀信徒總代ノ選舉ハ私法上ノ行爲ニアラスシテ公法上ノ行爲ニ屬スルカ故ニ一旦或手續ノ下ニ一定ノ者ヲ檀信徒總代ニ選定シ之ヲ其所轄官廳ニ届出テ受理セラレタル以上ハ右ノ手續若クハ原因ニ違法ノ點アルモノ右ハ單ニ取消シ得ヘキニ止マリ之ヲ無効ト爲スヲ得サルモノトス(東京地大正三年評論三卷諸法七六頁)

◎氏子檀家總代ノ選定及其ノ資格有無

明治十四年内務省達乙第三十三號ニ各管内社寺總代人ノ儀氏子檀家中相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スル者三名以上相選ミ戸長役場ニ届出云々總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場若クハ戸長役場へ届出ツヘシ云々トアルニ依リテ見レバ檀家總代ナルモノハ檀家中相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スル者三名以上ヲ選舉スルヲ要スルコト法文上明白ナルヲ以テ其選舉ノ方法ハ必ラスシモ現

今ノ諸種ノ選舉ニ付テ行ハルルカ如ク投票ノ方法ヲ須フル事ヲ要セサルモ少クトモ檀家多數ノ意思ニ基キ設定セラレタル者ニ非ラサレハ之ヲ檀家總代ト云フ事能ハサルヘク從テ檀家ノ意思ニ依ラス單ニ住職其他一二ノ者ノ意見ニ基キ推舉セラレタル者ノ如キハ假令事實上寺務ニ參與スルコトアルモ檀家總代タルノ資格ナキモノナルヲ以テ斯カル檀家總代タル資格ナキ者カ寺院ノ債務負擔契約ニ檀家總代トシテ連署スルモ法律上檀家總代ノ連署ナキト同一ニ屬スルヲ以テ其契約ハ寺院ニ對シテ何等效力ヲ有スルモノニ非ス(大阪地四五年評論一卷諸法六八頁)

明治十七年太政官布達一九號

(寺院住職任免及教師進退各管長ニ委任條件)

第四條 管長ハ各其立教開宗ノ主義ニ由テ左項ノ條規ヲ定メ内務省ノ認可ヲ得ヘシ

- 一 教規
- 一 教師タル分限及其稱號ヲ定ムル事
- 一 教師ノ等級進退ノ事

以上神道管長ノ定ムヘキモノトス

- 一 宗制
 - 一 寺法
 - 一 僧侶教師タルノ分限及其稱號ヲ定ムル事
 - 一 寺院ノ住職任免及教師ノ等級進退ノ事
 - 一 寺院ニ關スル古書寶物什器ノ類ヲ保存スル事
- 以上佛道管長ノ定ムヘキ者トス

◎本條ニ關スル諸問

◎寺院ノ代表者(續民法七五三頁)

◎未屆兼務住職ノ訴訟資格(民法二六頁)

◎住職ノ任免ニ關スル爭議ト爭議權(民法一八〇頁、同六六一頁)

◎宗制ノ性質

- 一 宗制ハ明治十七年太政官第十九號布達ニ基キ制定シタルモノナルヲ以テ宗教上ニ於テハ法律タル效力ヲ有ス(大審二五年民六卷六四頁)
- 二 明治十七年太政官布達第十九條ニ依レハ各宗管長ハ委任ニヨリ寺院住職ヲ任免シ且其任免ニ關スル條規ヲ包含スル宗憲宗法

ノニ非ス(名古屋地大正一四年法二四二〇號一七頁)

◎末寺ニ於ケル住職ノ任免

- 一 明治三三年ニ至リ眞言宗ノ僧侶ニシテ新義ヲ唱フルモノハ新義眞言宗トシテ認メラレ之ニ豐山派ト智山派ナル區別ヲ生シ獨立ノ宗派トナリ從來ノ眞言各派(古義眞言宗各派ト稱セラレ)ノ寺院ニシテ右ノ豐山派又ハ智山派ト公稱スルモノヲ公稱寺院ト爲シ公稱寺院ノ住職ノ任免ニ付キテハ從來所屬ノ眞言宗各派ノ管長ニ其權限アリ又ハ其公稱スル新義眞言宗タル豐山派又ハ智山派ノ管長ノ權限ニ屬スヘキヤニ付キ疑義ヲ生シタル爲メニ從來ノ眞言宗各派及ヒ新義各派ノ管長ハ右ニ關スル事項其他ノ協議ヲ爲シ眞言宗各派關係寺院取扱法ヲ定メ明治三十五年九月内務省ノ認可ヲ受ケルニ至レルモノニシテ右取扱法ニ依レハ從來ノ所謂古義眞言宗各派ニ屬スル寺院ノ末寺タル公稱寺院ノ住職ハ其公稱スル智山派管長ニ於テ夫々同派ニ僧籍ヲ置ク僧侶中ヨリ候補者ヲ檢知シ(其人格ヲ保護シテ推薦スルノ意味ナリ)其寺院ニ屬スル從來ノ眞言宗各派管長ニ於テ之ヲ任命スヘキモノニシテ右ノ檢知ナクシテハ之ヲ任命スルヲ得サルコトトナリタルモノトス(東京控一一年評論一卷諸法三三八頁)
- 二 末寺ニ於ケル住職ノ任免(諸法令上卷六八頁)

◎檀信徒ノ身分得喪ニ關スル條理ト寺法

即宗制ヲ制定スル權ヲ有スルモノナレハ其宗憲ハ一ノ行政上ノ法規タル性質ヲ有スルモノト解スルヲ相當トス(大阪控大正九年法一七一八號一六頁)

◎住職選定ニ關スル條規ノ性質

曹洞宗ノ宗法ノ一部タル寺院住職任免法中ニ規定セル住職選定ニ關スル條規モ固ヨリ一ノ行政上ノ法規ト解スヘキモノトス(大阪控大正九年法一七一八號一六頁)

◎住職ノ任免行為ノ性質

- 一 寺院ノ住職ノ任免ニ關スル行為ハ内務大臣ノ監督ニ屬スル行政事務ニシテ民法上ノ行為ニアラス從テ住職ノ就任スルコト之ヲ選任スルコト自體モ法律行為ニ屬セス(高松地大正一〇年評論一〇卷諸法四四二頁)
- 二 住職任免行為ノ性質(續民法七五二頁)

◎住職候補者ノ選定ト行政行為

寺院住職ノ任命ハ各宗管長ニ委任セラレ後文部省宗教局ノ管掌スル事項トナリタルモノニシテ即チ行政行為ナリトス從テ其任命ノ助成行為タル住職候補者選定ノ如キモ亦行政行為ノ性質ヲ帶ヒ該選定ニヨリ債務關係等其他私法上ノ效果ヲ發生スヘキモ

寺院檀信徒ノ身分得喪ニ關スル規程ハ明治十七年大政官布達第十九號第四條ニ所謂寺法ニ屬スルモノトス從テ該布達ニ依リ內務大臣ノ認可ヲ得サレハ其效力ヲ有セス(大審三十七年民一五〇頁)

◎社寺ノ訴訟ト總代ノ承諾

社寺ノ法定代理人カ社寺ヲ代表シテ其權利伸張ノ爲メ司法裁判所ニ訴訟ヲ提起スルニハ社寺總代ノ承諾ヲ經ルコトヲ要セス(東京控四四年法七二一號二〇頁)

明治二十四年內務省訓令

第四百六十二號

堤塘道路並木敷ノ使用及收益ニ關スル件地盤ノ官有ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ニ於テ處分スヘシ但市町村ノ處分ニ係ルモノハ府縣廳ノ認可ヲ請ハシムヘシ
前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル土木其他ノ收益ハ其費用ヲ負擔スル府縣及市町村ノ收入ニ屬ス

ヘシ(中略)
地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理ニ歸セシムヘシ

◎本條ニ所謂竹木其他ノ收益ノ意義

明治二十四年內務省訓令第四六二號ニ所謂竹木其他ノ收益トハ堤塘道路並木敷用惡水土居敷等ノ保護上保存ノ必要ナキニ至リタル竹木柴草等ノ類ヲ指稱シ其保存ノ必要ナキニ至リタル原因ハ風雪其他自然ノ事故ナルト他人ノ不法行為ナルトハサレモノトス(大審大正五年評諭五卷諸法一九七頁)

◎本訓令ノ效力

本訓令ノ趣旨ハ從來一般ニ行ハルル所ニシテ現ニ慣習ヲ成スモノナレハ一般ニ對シ遵由ノ效力アルモノトス(同上)

明治二十五年勅令第六號

◎國ノ代表ニ關スル諸問

- 一 明治二十五年勅令第六號第一條ハ當該官廳固有ノ事務ニ係ル民事訴訟ニ付同官廳ヲシテ國ヲ代表セシムルノ注意ナリトス(大審三十八年民一一八一頁)
- 二 一等郵便電信局ノ官舎建築ニ際シ隣地ヲ侵害シタリトスル訴訟ニ付テハ通信大臣ニ於テ國ヲ代表スヘキモノトス(大審三十八年民九三頁)
- 三 稅關所屬築造物ノ保管ハ其性質上稅關ノ司掌スル主要事務ニ附隨スヘキ一箇ノ事務ニ外ナラサレハ稅關ノ事務ト云フコトヲ得ヘキノミナラス法令上ヨリ云フモ稅關ノ事務ナルヲ以テ稅關長ハ右ノ事項ニ關シ國ノ代表者トシテ民事訴訟ヲ爲シ得ヘキモノトス(大審大正二年民一〇七五頁)
- 四 明治二十五年勅令第六號第二條及ヒ同年大藏省令第二號ニ所謂司掌事務ハ實ニ官制ニ掲ケル事項ノミニ止マラス其他法律命令等ニ依リ造幣局又ハ稅關ノ事務ト定メラレタルモノハ勿論性質上其事務ト認ムヘキモノヲモ包含スルモノトス(大審大正二年民一〇七五頁)
- 五 大林區署長カ國ノ代表者ヲ指定スルニ付キ明治二十五年勅令第六號第三條ハ何等ノ制限ヲ爲スコトナシ從テ其指定ノ訴訟ノ起リタル前ナルト後ナルトハ之ヲ問ハサルモノナリ(大審三十五年利六卷九頁)
- 六 明治二十三年勅令第二百七十六號ノ規定ニ依ル貸地契約ニ關係ノ事務ハ內務省ノ所管ニシテ明治二十五年勅令第六號第一條

- ニ所謂府縣廳ノ所管又ハ監督スル事務ニ非ス(大審三十八年民五五五頁)
- 七 府縣知事カ金庫ニ關スル事項ニ付キ大藏大臣ノ指揮ヲ受ケタルトキハ金庫ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ヘキモ是レ唯該命令ノ委任ニ過キサレハ明治二十五年勅令第六號第二條ノ規定ニ該當セス(大審三十八年民一一八一頁)
- 八 罰金料料裁列費用追徴金等ノ徵收手續上納人所有ノ不動産又ハ船舶ニ對シ強制競賣ヲ爲スノ止ムナキ場合ニ於テハ明治二十五年勅令第六號第二條第三條及ヒ同年司法省令第五號ニ準據シ檢事局ノ長官又ハ其指定シタル所屬官吏ニ於テ競賣申立ヲ爲スヘキモノトス(司法省民事兩局長四四年民事九五五號回答)
- 九 右ノ外民法第一四條ノ判例參看

明治二十六年勅令第七十

四號

◎本令ニ關スル諸問(本卷(ト)取引所令參看)

明治二十七年勅令第二十二號

神社ノ社掌ト法律上ノ地位

神社ハ國家ノ事務ニ屬スル祭神ヲ目的トスル一種ノ公法人ニシテ神社ニ職ヲ奉スル社掌ハ府社縣社以下神社ノ神職ニ關スル件及府社縣社以下神職任用規則等ヲ參照スルトキハ所定ノ試験合格者ヨリ地方長官之ヲ任命スルヲ常トシ列任官ヲ以テ待遇セラレルノミナラス其ノ職司ハ神明ニ奉仕シ祭祀及庶務ニ從事スルニ在ルヲ以テ其法律上ノ地位ハ氏子團體ノ職員トシテ目スヘキニ非ス寧ロ神社ノ機關ニシテ其ノ資格任用ノ形式待遇職務ノ性質等ニ鑑ミ之ヲ官吏ト斷スルヲ正當トス (大審昭和二年報一一一號二二頁)

明治三十年勅令第七〇號

大阪市有濱地賣却規定ノ性質

一 明治三十年勅令第七十二號同年大阪府令第二八六五號及ヒ市有濱地賣却規程ノ内容ニ徴スレハ大阪市カ府知事ノ委任ニ依リ國ノ事務ニ付キ係爭市有濱地賣却規程ヲ發布シタルモノニ非スト解スルヲ相當トス (大審大正七年民一〇六五頁)

二 明治三十年十二月九日大阪府指令 (二) 第二八六五號ハ其一部ハ國有濱地下付ニ關スル行政處分タルト同時ニ他ノ一部ニ於テハ大阪市ニ對シ行爲ヲ命スル行政法規タル性質ヲ有スルモノト認ムルヲ相當トス... 右指令ニ基キ大阪市カ制定セル濱地賣却規程ハ之ニヨリ市市民以外ノ者トノ間ニ市ノ賣却スヘキ濱地ニ關シ私法上ノ法律關係ヲ創設セシトスルカ如キ國ノ法規タル性質ヲ有スルモノニ非スシテ寧ロ該濱地ノ賣却ニ關シ市ノ執行機關ノ遵守スルコトヲ要スル一定ノ準則タルニ過キサルモノトス (大阪控大正七年法一三六五號二八頁)

明治三十二年法律第九號

北海道區町村會議員總代人及沖繩縣區會議員ノ選舉ニ關シテハ市町村會議員選舉ニ關スル罰則ヲ適用ス

北海道區制町村制及沖繩縣區制ニ依リ開設スル他ノ議會ノ議員

ハ選舉ニ付テ亦前項ニ同シ

明治三十二年法律第九號ノ法意

明治三十二年法律第九號ノ規定ハ北海道區町村會議員等ノ選舉ニ關シテハ市町村會議員選舉ニ關スルト同一ノ刑事上ノ制裁ヲ付スル旨趣ナリトス故ニ後者ニ關スル刑事上ノ制裁ヲ規定セル法律ニシテ變更若クハ廢止セラレルトキハ前者ニ關スル刑事上ノ制裁モ亦之ト同シク變更若クハ廢止セラレルモノトス (大審大正四年刑六一五頁)

明治三十六年內務省令第一二號

(木竹管理規則)

社寺境内木竹伐採禁止規定ノ旨趣

本省令第六條ニハ前二條ニ該當スルモノト雖モ神社寺院佛堂ニ由緒アル木竹及風致ニ必要ナル木竹ハ之ヲ伐採スルコトヲ得ストアリテ此規定ハ神社寺院等ニ由緒アル木竹及ヒ風致ニ必要ナル木竹ヲ保存シ以テ其利益ヲ保護スルノ趣旨ニ出テタルコト明

諸法令下 (三)

明治三十六年內務省令第二號 同第五號 同第一二號

一九六九

白ナレハ神社寺院等ハ斯ノ如キ木竹ヲ自ラ伐採スルコトヲ得サルノミナラス又之ヲ保存スルノ權利ヲ有シ何人ニテモ同省令ノ規定ニ反シ之ヲ伐採セントスルモノアルトキハ一種ノ私權トシテ其行爲ヲ差止ムルコトヲ得ルモノト解スルヲ相當トス故ニ本件請求ノ當否ヲ決スルニハ右省令ニ依リ係爭樹木カ風致ニ必要ナルモノナルヤ否ヤヲ確定セサル可カラス (大審三八年民一三六六頁)

明治三十六年內務省令第五號

本令第一條ニ所謂販賣ノ意義

本條ニ所謂販賣トハ汎ク代價ヲ得テ本條所定ノ製造品ヲ讓渡スルノ意義ニシテ必シモ營利ノ目的ニ出ツルコトヲ必要トセス (大審大正四年刑一〇六二頁)

明治三十六年內務省令第十二號

◎本令ニ關スル諸問

- 一 寺院境内地ハ明治卅六年内務省令第十二號ニ依リ一時限リノ使用者クハ參詣人ノ休息所等其使用三ヶ月以内ニ止マル者又ハ公益ノ爲メニスル使用ニ非サレハ寺院以外ノ者ニ於テ之ヲ使用シ得サル者トス(東京地四三年法六四六號一一頁)
- 二 明治三十六年内務省令第十二號寺院佛堂境内地使用取締規則第一條第二條ノ規定ハ寺院佛堂以外ノモノハ國有地タル境内ニ對シ絕對性ヲ有スル使用權ヲ有スルヲ得ス其使用權ハ寺院佛堂ノミ之ヲ享有シ得ヘキ旨ノ趣旨ニシテ寺院佛堂カ其使用權ニ基キ貸貸借等ノ行爲ニヨリ寺院ヲ他人ニ之カ使用ヲ許スカ如キ行爲迄禁シタルモノニ非スト解スルヲ相當トス(東京地昭和二年報一二三號二三頁)
- 三 寺院ノ有スル使用權ノ不可侵(諸法令上卷五七九頁)

明治三十八年法律第六十

六號

◎本法ニ關スル諸問

- 一 貨幣紙幣銀行券等カ偽造ナリトスルニハ必スシモ其製作ノ技

巧カ真物ニ酷似シ何人ノ鑑識ヲ以テスルモ容易ニ其眞實ヲ甄別シ能ハサル程度ニ達スルコトヲ要セス取引上動モスレハ人ヲシ

テ一見真物ナリト誤認スルノ虞アラシムル程度ニ在ルヲ以テ足ルモノトス(大審昭和二年法二六六四號九頁)

- 二 明治三十八年法律第六十六號ニ所謂外國ニ於テノミ流通スル銀行券トハ必スシモ外國ニ於テ強制通用力ヲ有スルモノニ限ラス適法ニ發行セラレ現ニ其ノ一地域ニ於テ事實上流通スルモノヲモ包含スト解スヘキモノトス(大審大正一五年利三七九頁)
- 三 明治三十八年法律第六十六號第一條乃至第三條ニ規定シタル罪カ外國ニ於テノミ流通スル金銀貨其他ノ硬貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ニ關スルモノニシテ證券ニ付テハ帝國官府ノ發行シタルモノノミヲ指稱スト雖モ硬貨、紙幣、銀行券、ニ付テハ單ニ外國ニ於テ發行シタルモノノミヲ包含スルモノトス——外國ニ於テ流通スル紙幣ノ偽造又ハ偽造紙幣ノ外國輸入若クハ授付ノ如キハ流通ニ付スル目的ヲ以テ之ヲ爲ステ常態トスルヲ以テ列示事實ノ全趣意ヨリ推斷シテ流通ニ付スル目的ニテ輸入若クハ授付シタルモノナルコトヲ認メ得ル以上ハ必スシモ法律上ノ用語ヲ使用シテ其事實ヲ確定スルノ要ナシ(大審大正三年利一四三八頁)
- 四 本法ニ關スル諸問(諸法令上卷二二〇頁)

明治三十九年法律第五十

七號

◎「官憲」ナル語ノ意義

官憲ナル詞ハ通常外國ニ對シ内國ノ官廳又ハ内國ニ對シ外國ノ官廳ヲ指スモノトス。理由、官憲ナル詞ハ近年法令中ニ用キラレタルモノニシテ明治三十九年法律第五十七號ニハ韓國ニ對シ内國官憲ナル語ヲ用キ明治三十八年勅令第二百六十七號統監府及理事廳官制第三條ニハ韓國ニ對シ帝國官憲及公署ナル語ヲ同第二十六條ニハ我帝國ニ對シ韓國當該官憲ナル語ヲ用キタリ之ニ依レハ内國又ハ外國ニ對シテ外國官廳又ハ内國官廳ヲ指ストキニ官憲ナル文字ヲ用ユルモノナリ而シテ右官制第三條ノ官憲ナル語ニハ公署ヲ包含セシメサルモ其他ノ場合ニ於テハ公署ヲモ包含セシメタルモノト解スヘシ(法曹會決議四三年法曹記事二一卷三號二八頁)

明治三十九年警視廳令第

四十七號

諸法令下 [六] 明治三十九年法律第五七號

◎本令第一條一項ノ解釋

明治三十九年警視廳令第四十七號第一條第一項第二十五號末段ニ所謂「騒音震動甚シキ製造所」ニハ電氣其他ノ動力ヲ使用シ附近ニ強度ノ音響又ハ震動ヲ波及スル印刷工場ノ如キモ之ヲ包含スルモノト解スヘキモノトス(大審大正六年利一五一頁)

明治四十年法律第三十一號

第一條 國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツ國稅ノ課稅標準額ニ付テモ亦同シ

◎本條ノ適用範圍

- 一 明治四十年法律第三十一號第一條ニ國庫ノ收入金又ハ仕拂金ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツトアルハ現ニ收納又ハ仕拂ヲ爲ス際適用スヘキ計算法ヲ定ムルモノナルヲ以テ辨償ノ責任ヲ定ムルニ過キサル訴訟費用ノ言渡ヲ爲スニ當リテハ之ヲ適用スルヲ要セサルモノトス(大審四五年利六八一頁)

二 稅法中造石稅ニ基キ罰金額ヲ定メタル場合ニ於テ其稅額ニ一錢未滿ノ端數アルトキハ明治四十年法律第三十一號第一條ニ依リ之ヲ切捨テ造石稅額ヲ定メ而シテ後之ニ據リテ罰金額ヲ算定スヘキモノトス (大審四二年刑一七八七頁)

三 明治四十年法律第三十一號 (國庫出納上一錢未滿ノ端數計算ノ件) 第四條第一項中ニハ裁判費用ノ徵收ヲ包含セサルカ故ニ收入印紙ヲ以テ納付スヘキ場合ト雖一錢未滿ノ端數ハ之ヲ徵收セサルモノトス然レトモ追徵金ノ徵收ニ付テハ其性質沒收ニ代ルモノナルヲ以テ同條第二項ニ依リ同法ノ適用ナキカ故ニ現金タルト收入印紙タルトチ間ハ全部之ヲ徵收スヘキモノトス (四四年刑甲第三〇號刑事局長回答)

明治四十年新潟縣令第六

十一號

◎本令ノ違犯行為

法令ニ依リ業務ト爲ス者ニ非シテ圖利ノ目的ニ出テ自己ノ利害ト何等ノ交渉ナキニ拘ハラズ濫ニ他人ノ爭訟其他ノ事件ニ干與スル以上ハ當事者ノ依頼ニ因ルト否トチ別タス又當事者ノ利益ヲ顧ミス專ラ自己ノ利益ノミチ圖ルト否トチ間ハ將タ又其

取得シタル利益カ勞力ノ報酬ニ相當スルト否トニ論ナク其行為ハ明治四十年新潟縣令第六十一號ニ違背シ處罰ヲ免レサルモノトス (大審大正五年刑一〇〇六頁)

明治四十二年內務省令第

十九號

第一條 病院醫院其ノ他公衆ノ需ニ應ジ診察治療ヲ爲ス場所ノ設立者ハ業務上何等ノ方法ヲ以テスルチ間ハ其ノ診察所、治療所ノ療法又ハ經歷ニ關スル廣告ヲ爲スコトヲ得ス
前項診察所又ハ治療所ニ於テ診察治療ニ從事セシムル醫師又ハ齒科醫師ノ技能、療法又ハ經歷ニ關シテ亦前項ニ同シ但シ其ノ學位、稱號及專門科名ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 第一條ニ違背シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

◎本令第一條ノ廣告事項

按スルニ原判決ノ認メタル被告ノ廣告事項中 (一) 包皮成形外科手術トアルハ整形外科ナル專門科名ニ附加スルニ其對象事項タル包皮ナル名目ヲ以テスルニ異ナラスシテ末尾ニ手術ノ文字ヲ加フルト否トハ其廣告ノ内容ニ異同ヲ來タスニ足ラサルヲ以テ畢竟此部分ハ明治四十二年內務省令第十九號第一條ニ所謂治療法ニ該當セサルモノト認ムルテ相當トス然レトモ (二) 梅毒獨逸製日本製六〇六號注射專門科トアルハ廣告者ニ於テ專門科ノ名ヲ付スルニ拘ハラズ其内容ハ治療ノ方法ニ外ナラス故ニ該廣告事項ハ前掲內務省令第十九號第一條ニ所謂治療所ノ療法ニ該當スルモノトス (大審大正一〇年刑六三六頁)

◎名醫又ハ大醫ト冠セル醫師ノ廣告

醫師ノ氏名ニ對スルニ名醫又ハ大醫ナル文字ヲ以テシ其ノ者カ診察治療ニ從事スル旨ノ廣告ヲ爲ストキハ讀者チシテ其醫師ヲ診察上拔群ノ技能ヲ有スル者ト思ハシムルヲ以テ病院ノ設立者カ其設立ニ係ル病院ニ於テ診察治療ニ從事セシムル醫師ニ付斯ル廣告ヲ爲スハ即醫師ノ技能ニ關スル廣告ヲ爲スモノニシテ明治四十二年內務省令第十九號第一條第二項ニ違背スルモノトス (大審昭和二年報一一一號一七頁)

◎經歷技能ヲ表示シタル廣告ノ實例

一 明治四十二年內務省令第十九號第一條ハ汎ク同條所定ノ診察所又ハ治療所ノ設立者カ右診察所又ハ治療所ノ經歷ニ關スル業務上ノ廣告ヲ爲スコトヲ禁止シタルモノナルカ故ニ其ノ經歷ニ屬スルモノナル以上ハ眞偽如何ヲ區別セス一切廣告ヲ許ササル法意ト解スルチ相當トス從テ原列示ノ如ク齒科診療所ノ設立者ニ於テ其ノ廣告ビラニ同診療所カ古キ歴史ト經驗トチ有シ齒科醫院トシテ諸般設備ノ完全信用厚キ齒科醫カ治療ニ從事シツツアル旨ノ經過ヲ記載スルハ即チ其ノ經歷ヲ表示シタルモノニ外ナラサレハ其ノ虛偽又ハ誇張ニ係ルノ故チ以テ前記省令違反ノ責チ免ルルチ得サルモノトス (大審昭和三年刑七〇七頁)

二 違反タル經歷、技能ノ廣告 (諸法令上卷二二頁)

第三條 設立者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス
設立者ハ其ノ代理人又ハ使用人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違背シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故チ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

法人ノ代表者又ハ其ノ使用人其ノ他ノ從業者ニシテ本令ニ違反シタル場合ニ於テハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ニ適用ス
法人ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

◎本令第一條ノ適用ヲ受クル者

- 一 明治四十二年内務省令第十九號第一條ハ醫師又ハ齒科醫師ヲシテ診察治療ニ從事セシムル診察所又ハ治療所ノ設立者ニ對シテ之ヲ適用スヘク斯カル場所ノ設立者カ自ラ診察治療ヲ爲ス醫師又ハ齒科醫師タルコトヲ要スルモノニアラス(大審昭和三年法二九四二號九頁)
- 二 廣告禁止規定ノ適用ヲ受クル者(諸法令中卷六八四頁)

明治四十二年遞信省令第

六十五號

第二條 郵便、電信及電話官署ニ於テ使用スル通信日附印ニ紛ハシキ印影ヲ描出スヘキモノ又ハ之ニ紛ハシキ印影ヲ有スルモノハ遞

信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造、販賣、頒布又ハ使用スルコトヲ得ス

◎通信日附印ニ紛ハシキ印影

遞信省徵章通信日附印及郵便切手郵模造取締規則第二條ニ所謂郵便官署ニ於テ使用スル通信日附印ニ紛ハシキ印影トハ該官署ニ於テ使用スル通信日附印ト外觀上混同誤認セラルル虞アル印影ヲ指スモノトス(大審大正一五年刑四四八頁)

雇人口入營業取締規則

(明治三十六年警視廳令第三十一號)

◎雇人口入業者ノ手數料額ノ標準

明治三十六年警視廳令第三十一號雇人口入營業取締規則第十四條ニハ手數料ハ雇傭契約期間内ニ於テ受クヘキ雇給總額十分ノ一以內トス雇給額ノ定マラサルモノハ其所得チ一箇月二圓五十錢以下ト見積ルコトヲ得トアルニ徴スレハ雇人口入業者ノ受クヘキ手數料ノ額ハ一ニ雇給額ノ如何ニ依テ定マルモノニシテ其以外ノ收入ノ多寡若クハ雇傭方法ノ複雑ナルト簡單ナルトニ依リ定マルモノニ非スト謂ハサルヲ得ス而シテ雇給トハ雇人口入

圓若クハ五圓位宛ノ座敷料ヲ受ケテ人ヲ宿泊セシメタルニ過キサルコト明白ナレハ之ヲ以テ右宿屋營業取締規則ニ違反スル行爲ナリト爲スチ得ス(大審大正四年刑二二五六頁)

山口縣魚市場規則

(大正十四年山口縣令第五十四號)

第一條 本則ニ於テ魚市場トハ水産動物ヲ競賣方法ニ依リ取引チ爲ス目的ヲ以テ開設スル市場及多衆集合シテ水産動物ヲ賣買セシムル目的ヲ以テ開設スル市場ヲ謂フ
知事ノ指定シタル區域内ニ於テ水産動物ノ取引ヲ爲ス間屋營業又ハ仲立營業ハ魚市場ト看做ス

◎下宿營業ノ意義

明治二十八年三月警視廳令第二號宿屋營業取締規則第一條第二號所定ノ下宿營業トハ少クモ食料座敷料ノ兩者ヲ併セ受ケテ人ヲ寄宿セシムルヲ謂フモノニシテ食料ヲ受ケス座敷料ノミヲ受ケルモノハ右ニ該當セサルコト該規定ノ解釋上疑ヲ容レズ而シテ原判決ノ確定セル事實ニ依レハ本件被告ハ單ニ毎月金三

第二十六條 法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ處罰ス

◎法人ノ處罰ト刑責ヲ受クヘキ代表者

◎山口縣魚市場規則ニ所謂魚市場ノ開設

一 大正十四年山口縣令第五十四號魚市場規則第二十六條ハ法人ノ代表者カ法人ヲ代表シテ反則行爲ヲ爲シタルニ因リテ之ヲ處罰スルモノニ非ス...

藥品營業並藥品取扱規則

(明治二十二年法律第十號)

第一條 藥劑師ハ藥局ヲ開設シ醫師ノ處方箋ニ據リ藥劑ヲ調合スル者ヲ云フ

◎處方及調劑ノ意義

一 藥品營業並藥品取扱規則第一條第一項ニ所謂處方トハ特定人

◎藥品ノ製造及製造販賣ノ意義

一 本條第一條第二項ニ所謂藥品ノ製造トハ一般ノ需要ニ應スルカ爲メニ一定ノ作業ニ依リ日本藥局方又ハ外國藥局方所載ノ藥品及ヒ何レノ藥局方ニモ記載セサル藥品ヲ製出スルノ謂ニシテ...

諸法令下 [ヤ] 藥品營業並藥品取扱規則 一條

八條

一九七七

第八條 (略)

特定人ノ生命身體ニ對シ危險ヲ生スル虞アルコトハ其疾病眞實ニ存在スル場合トモモ徑庭ナキテ以テ特定人ノ特定ノ疾病アリトシテ之ニ對シ前示ノ如ク藥品ヲ調製シタルトキハ之ヲ以テ所謂藥品ノ調劑ヲ爲シタルモノト解スルヲ相當トス...

◎藥用阿片ノ賣買ト其ノ擬律(第四五條)

第十四條 藥劑師ハ患者ノ姓名、年齢、藥品、分量、用法、用量、處方ノ年月日及醫師ノ氏名ヲ自記シ又ハ調印シタル處方箋ニ據リ調劑スヘキモノトス但處方箋中疑ハシキ廉アルトキハ其醫師ニ質シ證明書ヲ得ルニ非サレハ調劑スルコトヲ得ス 藥劑師ハ調劑録ヲ備ヘ處方箋ヲ贈寫シ置クヘシ

◎本條ノ法意

本條ハ藥劑師カ調劑ノ基本ト爲シ得ヘキ處方箋ノ形式ヲ規定シ同第三十九條ノ三第一號ニ於テ之ニ違背スル所爲テ處罰スルハ畢竟藥劑師ヲシテ嚴ニ其形式ニ注意セシメ事實醫師ノ作成シタル診斷書ト雖モ其形式ヲ具有セサルモノハ之ニ據リテ調劑スルヲ得サルモノトスルノ趣旨ナルハ勿論非醫師ノ作成シタル處方箋ニ依リ若クハ全然處方箋ニ依ラズシテ調劑スルヲ禁遏スルノ趣旨ヲ包含セリト解スヘキモノトス(大審大正八年刑七二五頁)

◎調劑行爲成立ノ要件

藥品營業取規則第十四條第一項ニ所謂調劑ハ特定人ノ特定ノ疾病ノ存在ヲ前提トシ之ニ對スル治療藥ヲ調劑スル行爲ニ外ナラサレハ調劑行爲ノ成立スルニハ調劑セラレル藥劑ニ依リテ治療セラレヘキ特定人ノ特定ノ疾病ノ現實ニ存在スルコトヲ必要トシ且行爲者ニ於テ該事實ヲ認識スルコトヲ要スルモノトス(大審大正八年刑一四七頁)

◎本條違反罪ノ成立

一 藥劑師カ需要者又ハ第三者ノ病症ヲ判斷シ之ニ適應スル藥劑トシテ自己ノ意見ニ從ヒ藥劑ヲ調劑シ交付シタル以上ハ縱令其藥劑カ日本藥局方所定ノ藥品ニ該當スル場合ニ於テモ私ニ醫藥ヲ爲シタル罪ニ該當セサル限リ本規則第十四條ノ違犯トシテ第三十九條ノ三ニ依リテ處罰スヘキモノトス(大審大正六年刑二一六頁)

二 藥劑師カ非醫藥タル需要者ノ求ニ應シ需要者又ハ第三者カ服用スルコトヲ知り乍ラ醫藥ノ處方箋ニ據ラズ特定ノ疾病ニ對スル治療藥トシテ一種又ハ一種以上ノ藥品ヲ使用配合シテ之ヲ販賣交付シタル以上ハ縱令處方箋ノ據ルヘキモノナキ結果藥品營業取規則第十九條ノ命スル所ニ依リ該調劑ノ容器又ハ

ナリト云フヲ得サルモノトス(大審大正六年刑一五一五頁)

◎液體ヂフテリアヤ血清ノ貯藏

醫師カ傳染病研究所ヨリ買受ケタル液體ヂフテリア血清チ一年ヲ經過シテ貯藏シタルハ藥品營業取規則違反ナリヤ否ヤニ付テハ藥品營業取規則ニ從ヒ藥品取扱ニ關スル取締ヲ受クルハ藥劑師藥種商及製藥者タル營業者ニ限ラレ醫師ハ同附則第四十三條ニ依リ第二十六條第二十七條第二十九條ノ取締ヲ受クルニ止マル而シテ本問ノ案件ハ藥品ノ貯藏法ニ反シタルモノト認ムルヲ相當トスルカ故ニ醫師ニ對スル準則タラサル同法第二十八條違反ヲ以テ處分スルコトヲ得サルモノトス但時ノ經過ニ因リ藥局方所定ノ性狀品質ニ適合セサルモノト爲リタル場合ニ於テ同法第二十六條違反トシテ同法第三十九條ニ從ヒ處罰セラレヘク此點ハ鑑定ヲ待テ決スヘキモノニシテ一年ノ經過ヲ以テ直ニ此犯罪ヲ構成スルモノナリト論斷スルコトヲ得サルモノトス(法曹會決議大正九年法曹記事三一卷七號三六頁)

第二十九條 毒藥、劇藥、他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシ

◎精製綿及精製ガーゼノ性質

日本藥局方ニ列記セルモノハ總テ藥品トシテ取扱フヘキモノトス從テ精製綿及ヒ精製ガーゼハ一種ノ藥品タルコト疑テ容レヌ(大審四五年刑三八一頁)

◎精製綿ト婦人綿トノ區別

精製綿ト婦人綿トハ其實質ヨリ見レハ均シク脂氣ヲ拔去リタル綿ニ外ナラズト雖モ精製綿ハ日本藥局方ニ於ケル一種ノ藥品ニシテ同局方ノ所定ニ適合スル性質品質ヲ有スルコトヲ必要トスルニ反シ婦人綿ハ非藥品ナレハ二者其性狀品質ニ於テ全ク同一

諸法令下 (ヤ) 藥品營業取規則 二六條

二九條

◎本條ノ法意及解釋

一 藥品營業並藥品取扱規則第三十九條ハ毒劇藥ハ之ヲ營業者ノ監守スヘキ場所ニ貯藏スヘキコトヲ命シタルモノトス而シテ之ヲ他人ニ預ケ置キタルトキハ該條ニ違背シタルモノトス(大審三二年刑三卷五九頁)

二 第四十三條第一項ニハ醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得トアリ而シテ第二十九條ニハ毒劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ毒藥ハ鎖鑰ヲ備ヘタル場所ニ貯藏スヘシトアルニ依レハ醫師ハ劇藥ヲ他ノ藥品ト區別シ置クコトヲ要スルモ他ノ藥品ト區別シタル劇藥ハ之ヲ他ノ場所ニ貯藏スルコトヲ禁シ醫師自ラ其貯藏ヲ爲スヘキコトヲ命シタルモノニアラサレハ原判決ニ被告ハ醫師ニシテ云云劇藥ロートエキス(貴若草製劑)在中ノ藥籠一箇ヲ明治四十一年三月中柳隆彌方ニ於テ同人ニ預ケ同年九月迄其儘ニ放置シ自ラ劇藥ノ貯藏ヲ爲サザリシモノナリト列示スルノミニテハ其藥籠在中ノ劇藥ハ他ノ藥品ト區別シ置キタルモノナルヤ否ヤ之ヲ知ルニ由ナケレハ原判決ハ結局前示法條ニ規定セル犯罪ヲ構成セヘキ事實ノ理由ニ不備アル不法ノ裁判ナリ(大審四二年刑二三六頁)

第三十條 毒藥、劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名、量數、使用ノ目的、年月日及住所、氏名、職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得ス
前項ノ證書ハ其日附ヨリ滿十年間之ヲ保存スヘシ

◎本條第一項ノ解釋

藥品營業並藥品取扱規則第三十條第一項ニハ毒劇藥ハ職業上必要ト認メタル者ヨリ其藥名量數使用ノ目的年月日及住所氏名職業ヲ記シ且捺印シタル證書ヲ差出スニ非サレハ之ヲ販賣若クハ授與スルコトヲ得スト規定シアリテ右職業ナル文字中何等限定的意味ノ包含ナキノミナラス之レヲ該規定ノ全體ニ徴スルモ毫モ所論ノ如キ法意ノ存在ヲ認ムルコトヲ得サルヲ以テ叙上ニ規定シタル職業上必要ト認メタル者トハ汎ク該藥品ヲ使用スルコトヲ必要トスル業務ニ從事スル者ヲ指稱シ所論ノ如ク醫藥其他醫藥ヲ使用スルコトヲ必要トスル職業ニ從事スル者ニ限ラサルノ趣旨ト解スルヲ相當トスルト同時ニ該毒劇藥ヲ使用スルヲ必要トスル職業ノ如何及ヒ之レヲ使用スル必要ノ有無等ハ須ラケ當該事實承審官タル原審ノ專權ヲ以テ決スヘキ事案ナリト謂ハ

サルヘカラス(大審大正七年刑一五二八頁)

第三十五條 毒劇藥ノ品目ハ内務省令ヲ以テ之ヲ定ム

◎毒劇藥ト内務省令トノ關係

藥品營業並藥品取扱規則第三十五條ニ依リ定メタル毒劇藥ノ品目ニ該當スル物品ナリトスルモ明治四十五年内務省令第六號ニ依リ毒物劇物タル指定ヲ受ケタルモノハ醫藥用外ノ物品トシテ之ヲ販賣スルコトヲ得ルモノトス(大審大正二年評論一一卷諸法二九頁)

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ四百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 藥品ノ容器又ハ包紙ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者
- 二 第二十六條又ハ第二十七條ニ違背シタル者
- 三 第三十八條ノ二第一項ノ禁止ヲ犯シタル者

◎本條ト第二十六條トノ關係

藥品營業並藥品取扱規則第三十九條ノ規定ハ明治四十年法律第三十五號ヲ以テ追加セラレタルモノナルヲ以テ同條ノ三即チ事實ヲ知ラサル場合ハ素ヨリ同規則第二十六條ノ規定ニ包含セサルモノト解セサルヘカラス(大審大正二年刑六一二頁)

◎本條違犯罪ノ構成

藥品營業並藥品取扱規則ニ於テハ理論上醫藥用ナルト工業用ナルトヲ區別セサルヲ以テ汎ク劇毒藥ノ品目ヲ定メ第三十條ヲ以テ之レカ販賣授與ニ關シ相當ノ手續ヲ定メタル以上ハ之ニ違反シタル者ハ其藥品ノ用途如何ヲ問ハス同則第三十九條ニ依リ處罰スヘキモノトス然レトモ實際ノ取扱振ハ醫藥用ノミニ適用スヘキモノトセリ暫ク其取扱ニ依ルノ外途ナシトス(刑事局長四年刑事事甲第二四九號回答)

◎サツカリン販賣行為ノ處分

日本藥局方ノ規定ニ適合セサル性状品質ノサツカリンハ之ヲ醫藥用品トシテ販賣シタル場合ニ於テハ藥品營業並藥品取扱規則所定ノ犯罪ヲ構成スヘキモ之ヲ工業品トシテ販賣スルハ如上ノ犯法行為ニ非ス(大審大正二年刑一三一七頁)

第三十九條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 藥劑師ノ免狀ヲ受ケス又ハ其業務ノ禁止停止ノ處分ニ違背シ藥劑師ノ業ヲ爲シタル者
- 二 第三十七條ノ二第一項第三十七條ノ三又ハ第三十七條ノ四ニ違背シタル者

◎免許ヲ受ケサル調劑業ノ處分

苟モ藥劑師ノ免狀ヲ受ケスシテ醫師ノ處方箋ニ據リ調劑ヲ業トシタル者ハ藥局ヲ開設シテ之ヲ爲シタルト否トニ關セス藥品營業取扱規則第三十九條ノ二第一號ニ該當スルモノトス (大審四三年刑一〇四三頁)

第四十三條 醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコ

背スル所アルモ之ヲ以テ第四十三條ニ所謂醫師自ラ藥劑ヲ調合シタル者ト云フヲ得サレハ醫師ニ於テ其責ニ任スヘキ謂レナシ (大審大正二年刑三一七頁)

第四十五條 阿片賣買ニ關スル事項ハ明治十一年八月第二十一號布告ニ據ル

◎藥用阿片ノ賣買ト其ノ取締

藥種商ニシテ阿片賣買ニ關スル違反者ハ明治二十二年法律第十號藥品營業取扱規則第四十五條ニ基キ明治十一年第二十一號布告藥用阿片賣買ニ製造規則第九條第十六條ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス (大審三〇年刑四卷二六頁)

藥品巡視規則

(明治二十二年內務省令第四號)

第四條 監視員ハ公私立病院及ヒ醫師ノ調劑所ニ臨ミ藥品ヲ検査ス

諸法令下 [ヤ] 藥品巡視規則

四條

ト得此場合ニ於テハ第三十八條ノ監視ヲ受クヘシ

◎本條第一項ノ法意

本條第一項ニ醫師ハ自ラ診療スル患者ノ處方ニ限リ第二十六條第二十七條第二十九條ニ從ヒ自宅ニ於テ藥劑ヲ調合シ販賣授與スルコトヲ得トアルニ由リテ之ヲ觀レハ醫師カ患者ノ處方ノ爲ニスル場合ニ於テハ右三條ノ規定ヲ全然遵守スヘク當ニ製造販賣授與ノミニ限ラス貯藏陳列ニ付テモ亦該規定ニ從フヘキハ解釋上疑ヲ挿ムノ餘地ナク殊ニ第二十九條ノ如キ單ニ貯藏ニ關スル規定ヲモ適用スヘシト爲ス明文ニ徵スレハ貯藏ヲ除外スヘシトノ論旨ノ失當ナルハ益明ナリ (大審大正九年刑三七九頁)

◎藥劑師ト醫師ノ從業者

醫師ハ其代理人戸主家族同居人雇人其他ノ從業者ニシテ醫師ノ業務ニ關シ爲シタル行爲ハ同規則第四十一條ノ四ニ依リ醫師自ラ其責ニ任スヘキモ藥劑師ニシテ醫師ト共ニ他ノ病院ニ傭聘セラレ各自其職責ヲ異ニスル業務ヲ擔任スル場合ハ假令藥劑師ハ醫師ノ監督ノ下ニ在ルモ藥品營業取扱規則上藥劑ヲ調合スルハ藥劑師ノ職責ニ屬スル當然ノ業務ナレハ右藥劑師ハ醫師ノ從業者ニアラス從テ其藥劑ニ關スル行爲ニシテ前記規則ニ違

ハコトアルハシ

◎調劑所ノ範圍ト其ノ延長

藥品營業取扱規則ハ公衆衛生取締ノ見地ヨリ主トシテ藥劑師製藥業者等ニ關スル事項藥品取扱ノ方法等ヲ規定シ附則トシテ醫師ノ調劑販賣スルコトヲ得ヘキ場合等ヲモ加ヘタルモノニシテ藥品取扱ノ方法ニ關シテハ藥劑師等ト醫師トノ間各其責任ニ何等軒輕アル理由ナレケハ藥品巡視規則第五條ニ「第二條第三條ノ外ニ於テ藥品貯藏スル場所アレハ其場所ニ就テ検査スルコトアル可シ」ト規定シ第四條ヲ掲ケサルヲ以テ巡視員ノ検査ハ藥劑師製藥業者ニ對シテハ藥局又藥品販賣製造ノ場所ノ外藥品貯藏ノ場所ニモ及フ可キモノナルモ醫師ニ對シテ其調劑所以外ニ検査チ及ボササルカ如シト雖モ元來醫師ノ自宅ニ於ケル調劑販賣ハ自ラ診療スル患者ニ制限セラレルヲ以テ其必要ニ應ジテ藥品ノ取扱ヲ爲スモノナレハ調劑所ノ外別ニ藥品貯藏ノ場所ヲ有セサルヲ普通ノ場合ト看做ス可ク醫師ニシテ偶々調劑所以外藥品貯藏ノ場所ヲ有スルコトアルモ畢竟其調劑所ノ延長ニ過キササルモノト認ムルヲ妨ケサレハ均シク巡視員ノ検査ヲ受ク可キモノニシテ故ラニ第五條ニ於テ第四條ノ場合ヲ除外シタル旨趣ニ非スト解スルヲ相當トス (大審六年刑一〇八五頁)

有價證券割賦販賣法

第一條 本法ニ於テ有價證券割賦販賣ト稱スルハ代金ヲ分割シテ數回ニ受入レ有價證券ノ給付ヲ爲スヲ謂フ代金ノ分割受入ト同一ノ目的ヲ達スヘキ方法ニ依リ有價證券ノ給付ヲ爲スモノ亦同シ

◎有價證券ノ割賦販賣ノ意義

數枚ノ有價證券ヲ一括シテ賣買ノ目的ト爲シ其ノ證據金ヲ徵收シ代金ヲ分割シテ數回ニ受入レ有價證券ノ給付ヲ爲スモノハ縱令一枚ノ代金ニ相當スル金額ヲ受入ルル毎ニ一枚ノ證券ヲ給付スルトキト雖有價證券割賦販賣法第一條ニ所謂有價證券割賦販賣ニ該當ス(大審大正一三年刑一〇七頁)

遊技場營業取締規則

(大正元年大阪府令第十二號)

第二條 遊技場營業ヲ爲サムトスル者ハ左記ノ事項ヲ具シ所轄警察官

署ノ許可ヲ受ケ(左記略)

◎第一號ノ遊技場營業者

大阪府令遊技場營業取締規則第九條第一號ノ違反者タルニハ自己ノ計算ニ於テ遊技場營業ヲ爲シタル者タラサルヘカラス其ノ遊技ニ關スル業務ノ取扱者ノ如キハ同條ノ違反者トシテ罰スヘキモノニ非ス(大審大正一四年刑五三三頁)

遊藝稼業取締規則

(明治三十六年高知縣令第五十八號)

◎遊藝稼業ノ意義

明治三十六年高知縣令第五十八號遊藝稼業取締規則第一條ニ所謂遊藝稼業ト稱スルニハ其遊藝ヲ以テ生活ノ資ニ供スル爲メ之ヲ生業ト爲スモノナラサル可カラズ而シテ生業ナルモノハ固ヨリ繼續的性質ヲ有スルモノニシテ單ニ一回他人ノ依頼ニ應ジ自己ノ嗜好ニ係ル遊藝ヲ演シ好意上謝禮ヲ受ケタリトテ之ヲ以テ直ニ遊藝稼業ヲ爲スモノト稱ス可カラサルヤ明カナリ然レニ原

裁判所ノ判示スル所ニ依レハ被告ハ大正二年十一月二十日(中略)岡崎麗太郎方ニ於テ同所青年團ノ聘ニ應ジ浪花節ヲ語リ頭一圓ヲ貰ヒ受ケ以テ遊藝稼業ヲ爲シタルモノナリト云フニ在

レトモ其判旨タルヤ單ニ一回他人ノ聘ニ應ジテ浪花節ヲ語リタル場合タリトモ苟モ纏頭ヲ受ケタル以上ハ之ヲ遊藝稼業ト判定スヘキノ趣旨ナリヤ將又其末段ニ判示セル如ク遊藝稼業ヲ繼續的ニ爲シ居ルモノナリトノ趣旨ナルヤ明瞭ナラズト雖若シ夫レ前者ノ判旨ナリトセンカ此レ遊藝取締規則ノ趣旨ヲ誤解シタルモノト云フヘク若シ又判示ノ趣旨後者ニ在リトセンカ單ニ遊藝稼業ヲ爲シタルトアルノミニシテ繼續的意思ヲ以テ之ヲ生業トスル何等具體的事實ヲ判示セサルヲ以テ其判決ノ當否ヲ判斷スルニ由ナク要スルニ原判決ハ理由不備ニシテ破毀ヲ免レサルモノトス(大審大正三年刑一六四七頁)

要塞地帶法

(明治三十二年法律第五五號)

第三條前段 要塞地帶ハ陸地ト海面トト間ハス之ヲ三區ニ分チ各區ハ幅員ハ左ノ區別ニ從ヒ陸軍大臣之ヲ定メ之ヲ告示ス其ノ之ヲ

諸法令下 (三) 要塞地帶法

三條

七條

變更スル場合亦同シ

◎要塞地帶區域ノ告示ノ效力

要塞地帶法ト其地帶ノ區域ヲ定メタル陸軍省告示トハ相映テ運用ヲ爲スモノトス從テ官報ヲ以テ正式ニ公布シタル告示ハ該法ト同一ノ效力ヲ有ス(大審三五年刑一卷五六頁)

第七條一項 何人ト雖要塞司令官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ要塞地帶内水陸ノ形狀ヲ測量、撮寫、錄取スルコトヲ得ス

◎本條ノ解釋

要塞地帶内ノ水陸形狀ヲ現場ニ臨ミタル者カ現場ニ於テ又ハ後日其記憶ニ基キテ作成シ若シ既成ノ文書圖畫ヲ材料トシテ其模樣ヲ錄寫スル行爲ハ要塞地帶法第七條ニ該當スルモ反之現場ニ臨ミタルコトナキ者カ既成ノ圖畫文書ニ基キテ圖面又ハ文書ヲ作成スルカ如キ場合ハ同法中ニ包含セス(刑事局長四四年刑事甲第一三一號回答)

◎所謂模寫ノ意義ト地圖ノ謄寫

一般用語例ニ依レハ模寫ト稱スルハ或物體ニ模倣シテ之ニ類似セル物ヲ作成スルヲ謂フト雖其作成ニ際シ直接其物體ニ臨接シテ模倣作成スルヤ否ニ付テハ多少ノ疑ナキ能ハス然レトモ臺灣國防用防禦營造物區域取締規則ハ要塞地帶法ノ規定ヲ查スルニ模寫ハ之ヲ測量攝影等ト列記シアリテ少クトモ測量攝影ハ國防用防禦營造物區域又ハ要塞地帶ノ現場ニ臨接シテ爲スコトヲ要ス可キハ明白ナルヲ以テ其意義ハ現場ニ於ケル水陸ノ形狀寫生ノ行爲又ハ之レト同視スヘキ行爲即チ現場ノ實見ニ依ル記憶ニ基キ水陸ノ形狀ヲ描寫スル行爲ヲ指稱スルモノト解スルヲ安當トス一被告等ノ行爲ハ單ニ地圖ヲ謄寫セリト云フニ在リテ寫生若クハ之ト同視スヘキ行爲ヲ爲シタルニ非サルヲ以テ所謂水陸ノ形狀模寫ニ該當セサルモノトス(臺灣高等法院法一〇年四月臨時號二九頁)

◎寫眞器械ト犯罪供用物件

要塞地帶法第七條ハ方法ノ如何ヲ問ハス要塞司令官ノ許可ヲ得スシテ要塞地内水陸ノ形狀ヲ測量シ又ハ其形狀ニ付キ或物體ノ上ニ後日ニ存在セシムヘキ性質ヲ有スル表顯ヲ爲スコトヲ禁止シタルモノトス從テ之ヲ表顯スル爲メ使用シタル寫眞器械ハ犯罪組成ノ物件ニ非スシテ犯罪供用ノ物件ナリトス(大審三五年)

利息制限法

(明治十年布告第六十六號)

第一條 凡ソ金錢貸借上ノ利息ヲ分テ契約上ノ利息ト法律上ノ利息トス

◎利息制限法ニ所謂利息ノ意義

- 一 利息トハ元本ノ使用ノ對價トシテ債務者カ債權者ニ仕拂フヘキモノノ謂ニシテ明治十年第六十六號布告利息制限法中ニモ特別ノ意義ヲ有セシメタル文詞ナキヲ以テ同法ニ所謂利息トハ元本使用ノ對價物カ金錢ナルトキノミヲ指シタルニ非サルコトヲ推知スルニ足ル(大審三五年民四卷三四頁)
- 二 明治十年第六十六號布告利息制限法ニ所謂利息トハ獨リ填補利息ノミナラス損害賠償ノ性質ヲ有スル遲延利息ヲモ包含スルモノトス(名古屋控四二年法五七六號一一頁)

◎賣買代金ノ利息ト利息制限法

一 利息制限法ハ金錢貸借ノ場合ニ限り適用スヘキモノニシテ買

シムヘシ

◎制限超過ノ利息ニ關スル諸問

- ◎重利ヲ認容スヘキ場合(第二續民法四二六頁)
- ◎重利ノ意義及要件(同上)
- ◎利息制限法ニ關スル諸問(第二續民法四二三頁、續民法一〇六〇頁)

◎制限超過ノ利息ト辨濟ノ充當

- 一 制限超過ノ利息ト法律上ノ充當(民法二八〇頁)
- 二 利息制限法ニ定ムル制限外ノ利息ニ付キ辨濟ノ充當ヲ豫約スルコトハ其制限ヲ超過シタル部分ニ關シテハ無効ナレトモ債權者カ其豫約ニ基キ辨濟ノ充當ヲ爲シタルニ對シテ債務者カ承認ヲ與ヘタルモノヲモ無効ト爲スヘキモノニ非ス(大審大正三年民二三八頁)
- 三 制限外ノ利息ニ關スル契約ハ當然無効ナルヲ以テ法律上ノ充當ノ場合ニ於テ右ノ約旨ニ因ル制限外ノ利率ニ從ヒ充當スルモ這ハ何等ノ效力ヲ有スルモノニ非ス(大審大正一一年法一九八八號一八頁)
- 四 貸借上ノ債務ノ辨濟ハ特ニ辨濟充當ノ契約ナキ限リ先ツ利息

◎拂込遲滯ノ損害賠償ト利息制限法(續商法七三七頁)

主ノ支拂フヘキ賣買代金ニ利息ヲ附スルコトヲ約シ代金ノ一部ト認メラルル如キ場合ニ適用スヘキモノニアラス(大審大正七年評論七卷諸法九八頁)

◎利息制限法ハ金錢貸借ノ場合ニ限り適用スヘキモノニシテ買

主ノ支拂フヘキ賣買代金ニ利息ヲ附スルコトヲ約シ代金ノ一部ト認メラルル如キ場合ニ適用スヘキモノニ非ス(大審大正一〇年法一九四二號二二頁)

(參照)

舊第二條 契約上ノ利息トハ人民相互ノ契約ヲ以テ定メ得ヘキ所ノ利息ニシテ元金百圓未満ハ一ヶ年ニ付百分ノ十五(一割五分)百圓以上千圓未満ハ百分ノ十二(一割二分)千圓以上百分ノ十(一割)以下トス若シ此制限ヲ超過スル分ハ裁判上無効ノモノトシ各其制限ニマテ引直サ限ニマテ引直サシムヘシ

ニ充當セラルヘク其利率カ利息制限法ニ超過スル場合ト雖當事者カ該利率ニ隨ヒ任意既ニ辨濟チ了シタル上ハ該辨濟ハ有效ト見ルノ外ナキモノト謂フヘク而シテ本件利率ハ日歩十五錢ノ定メナルコト當事者間爭ナキヲ以テ原告ニ於テ特ニ辨濟充當ノ契約ヲ主張セサル本件ニ於テハ右債務者カ既ニ支拂ヒタル本件金員ハ利息中ニ充當辨濟セラレタルモノト認ムルノ外ナシ(東京區昭和三年報一四四號二六頁)

五 (右四ノ批評) 利息制限法ニ違反スル高利契約ニ基ク制限外ノ利息ト雖何等ノ異議ヲ留メスシテ既ニ支拂チ爲シタル以上之カ取戻チ爲スチ得サルコトハ多年大審院ノ判例トスル所ニシテ之ニ對シテハ多數學者ノ反對說アリト雖判例ノ變更ヲ見サル以上實際問題トシテハ暫ク之ニ從フノ外ナシ而シテ右大審院ノ判例トスル所ハ當事者間既ニ任意ニ之カ授受チ了シタル場合ニ限ル趣旨ナルコト明白ナルカ故ニ今若シ債務者カ一個ノ債務ニ對スル辨濟トシテ元本並利息ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル給付チ爲シタル場合ニ於テ辨濟者カ之ヲ以テ先ツ第一ニ制限チ超過スル約定利息ニ充當シ其殘餘チ元本ニ充當スヘク指定シタルトキ若クハ辨濟者ニ於テ指定チ爲ササルニヨリ債權者カ辨濟受領ノ際ニ之カ充當ニ關シ右同様ノ指定チ爲シ之ニ對シテ債務者異議ヲ述ヘサリシトキノ如キハ孰レモ當事者間任意ニ制限外利息ノ授受チ爲シタルニ外ナラサルヲ以テ斯ル場合ニ後日制限ノ利率ニ引直シチ求ムルカ如キハ許容スヘキ限リニ在ラサルヲ論テ俟

タスト雖若シ辨濟ノ時ニ於テ債務者債權者ノ何レヨリモ之カ充當ニ關シテ何等ノ指定チ爲ササリシトキハ全然右ト異リ其給付ハ先ツ第一ニ制限ノ利息ニ充當シ殘餘チ元本ニ充當セサルヘカラサルヲ疑ナキ所ナリト謂フヘシ何者辨濟トシテ提供シタル給付カ元本及利息ノ全部ヲ消滅セシムルニ足ラサル場合ニ於テハ利息元本ノ順序ヲ以テ充當スルヲ要スルコトハ民法第四百九十一條ノ規定スル所ナリト雖而カモ制限チ超過スル部分ノ利息契約ハ無効ナルカ故ニ當事者ノ意思ニ依ラスシテ當然制限外ノ利息ニ充當セラルヘキモノト爲スチ得サルヲ明白ナル事理ニ屬スレハナリ(判例研究五卷六號三一問一八六頁)

第四條 第二條ニ依リ定限利息ノ外總テ人民相互ノ契約ヲ以テ禮金梅利等ノ名目ヲ用ル者アルトモ總テ裁判上無効ノ者トス

◎本條ニ關スル諸問

◎裁判上無効ナル利息ノ契約(民法三八九頁)
◎高利貸借ニ於ケル用語ノ解釋(民法三八八頁)

◎報酬名義ノ支拂契約ト本條

テ損害ノ補償ト看做シ裁判官ニ於テ該債主ノ事實受ケタル損害ノ補償ニ不當ナリト思量スルトキハ之レニ相當ノ減少チ爲スコトヲ得

◎本條ノ法意及適用

一 民法施行法第五十六條ノ規定ハ唯金錢債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ額ヲ定ムルニ付キ依ルヘキ利率ニ關スル經過法ヲ定メタルモノニ過キサレハ之ニ依リテ利息制限法第五條ノ規定ヲ民法施行後ニ生シタル債務關係ニ適用セシメサルノ法意ニ出テタルモノト解スルコトヲ得ス(大審大正九年評議九卷諸法二七五頁)

二 民法施行後ニ制定セラレタル商法施行法第一百七條ニ於テ利息制限法第五條ノ規定ハ商事ニハ之ヲ適用セサル旨ヲ明言セルハ民事ニ付テハ民法施行後ニ生シタル債務關係ニモ之ヲ適用スル爲メニ外ナラス(大審大正九年評議九卷諸法二七六頁)
三 利息制限法第五條ト本條トノ關係(第二續民法四六二頁)
四 金錢貸付事業トスル會社ト利息制限法(第二續商法一六一九頁)

◎遅延損害金ト利息制限法第五條

◎藝妓ノ花口錢ノ支拂契約ト本條

債權ノ契約上ノ利息カ月二錢五厘ノ割合ニシテ年三割トナリ既ニ利息制限法ノ制限利率ヲ超過セルノミナラス更ニ其上ニ所謂花口錢トシテ藝妓ノ所得花一本ニ付キ一錢宛チ支拂フヘキ旨ノ契約ハ世話料又ハ報酬等ノ名義ヲ用フルモ利息制限法第四條ニ依リ裁判上當然無効トス(神戸地大正五年法一一一號二四頁)

第五條 返還期限ヲ違フルトキハ債主ヨリ債主ニ對シ若干ノ價金罰金違約金料等ヲ差出スヘキコトヲ約定スルコトアルトモ概シ

一 金錢ノ貸借ニ付テハ利息制限法第五條ハ民法ノ規定ニ先シテ適用セラルルヲ以テ民法第四百十九條所定ノ金額ヲ超ユル請求

ハ債權者ノ事實受ケタル損害カ同法條ニ定ムルトコロニ超ユルコトノ認メ得ラレサル限リ單ニ損害金ノ約束アリタルハトテ之ヲ認容スルコトヲ得ス(東京地大正一四四年法二四七六號九頁)

二 利息制限法ハ契約自由ノ原則ニ對スル例外規定ニシテ公益ニ關スル一ノ強行法ナルモ限ニ消費貸借上ノ利息ニ關シテノミ適用アルコト勿論ニシテ消費貸借ヲ爲スニ際シ當事者カ其約定ノ返還期ニ於テ履行アラサル場合ニ備フル爲メ遲延損害金ノ支拂ニ付約定スルトコロアルモ固ヨリ利息制限法ニヨリ當然其效力ヲ左右セラルルモノニアラス唯同法第五條ニヨレハ裁判官ニ於テ斯ノ如キ損害支拂ノ協定力債權者ノ事實受ケタル損害ノ補償トシテ不當ナリト思量スルトキハ是ニ相當ノ減少ヲ爲スコトヲ得ルニ止マルモノトス(東京地大正一五五年報一二〇號二三頁)

立木ニ關スル件

(明治四十二年法律第二十二號)

第一條 本法ニ於テ立木ト稱スルハ一筆ノ土地又ハ一筆ノ土地ノ一部分ニ植栽ニ依リ生立セシタル樹木ノ集團ニシテ其ノ所有者カ本

法ニ依リ所有權保存ノ登記ヲ受ケタルモノヲ謂フ

◎本條ニ關スル諸問

- ◎立木法ノ立木タル要件(續民法七七五頁)
- ◎立木ノ性質及地盤ト立木トノ關係(第二續民法六八頁)
- ◎登記ナキ樹木ノミノ賣買(續民法七七五頁)
- ◎樹木ノ集團ニ對スル假登記ノ許否(本卷「フ」不動産登記法二條)

第十七條 所有權保存ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ保存登記ニ付土地ノ登記簿上利害ノ關係ヲ有スル第三者アルトキハ申請書ニ其ノ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ贈本ヲ添附スヘシ

◎立木ノ保存登記ト地上權者ノ承諾書

土地所有者カ地上權設定以前ヨリ有シタル自己所有ノ立木ニ付キ所有權保存ノ登記ヲ爲スニ付テモ明治四十二年法律第二十二號第十七條ニ依リ地上權者ノ承諾書又ハ之ニ代ルヘキ裁判ノ贈

陸軍刑法

(明治四十一年法律第四十六號)

本ヲ添附スルコトヲ要スルハ言テ俟タサル所ニシテ立木カ土地所有者ノ所有ニ係ルノ故ヲ以テ右法規ノ適用ヲ左右スヘキモノニ非サルナリ(大審大正六年評論六卷諸法三六三頁)

第八條第二號 陸軍軍人ト稱スルハ左ニ記載シタル者ヲ謂フ
二 召集中ノ在郷軍人

◎召集中ノ在郷軍人ノ意義

陸軍刑法第八條第二號ニ所謂召集中ノ在郷軍人トハ現ニ召集ニ應シ指定ノ召集部隊到着地ニ到着シタル在郷軍人ノ義ニシテ召集令狀ヲ受クルモ之ニ應セザリシ者ヲ包含セス(大審四三年利四五七頁)

第七十條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從

諸法令下 (リ) 陸軍刑法

八條—一九六條

一九九一

◎本條ニ所謂暴行ノ意義

陸軍刑法第七十條ノ罪ハ多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲スニ因リテ成立スルモノニシテ其ノ所謂暴行トハ之ヲ廣義ニ解シ不法ニ有形的力ヲ使用スルヲ謂ヒ其ノ受クル者ニ制限ナキカ故ニ入ニ對スルト物ニ對スルトチ區別スルコトナシト解スルチ正當ナリトス(大審大正一五年民二五一頁)

第九十六條第一號 在郷軍人故ナク召集ノ期限ニ後レタルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス
一 戰時ニ際シ又ハ事變ノ爲召集ヲ受ケタル場合ニ於テ五日ヲ過キタル者ハ二年以下ノ禁錮ニ處ス

◎本條第一號ノ意義及適用

- 一 陸軍刑法第九十六條第一號ニ所謂戰時ニ際シトアルハ同條所定ノ召集ニ付キ其時期カ戰時ニ際スルコトヲ謂フモノトス(大審大正七年刑一〇〇二頁)
- 二 本條第一號ニハ單ニ「戰時ニ際シ」トアルノミニシテ何等ノ制限ナキヲ以テ其規定ハ所論ノ如ク戰時或急劇召集ヲ要スル期間ニ於テノミ適用スヘキモノト解スヘカラス(大審大正五年刑一八五五頁)

◎戰時ニ際スル召集(諸法令中卷一〇八五頁)

◎演習召集ニ應セサル正當事故

演習召集ハ應召員チシテ勤務演習ヲ爲サシムルノ目的ニ出ツルモノナレハ應召員カ勤務演習ニ堪ヘサル傷疾疾病等ハ該召集ニ應セサル正當ノ事故ナリトス(大審四三年刑二二二頁)

◎演習召集不應罪ト牽連犯

應召員カ演習召集ヲ免ルル爲メ醫師ニ依頼シテ虚偽ノ診斷書ヲ作成セシメ之ヲ當該官廳ニ提出シテ召集ニ應セザリシトキハ其各行爲ノ間ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス(大審四三年刑一一七〇頁)

法會議ニ於テ之ヲ爲ス
陸軍官署若クハ軍人ノ損害ニ係ル本案附帶ノ私訴アルトキハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス

◎軍人ノ犯罪ト管轄

- 一 陸軍治罪法第一條ニ依レハ軍人ノ犯罪ニ關スル審判ハ軍法會議ニ於テ之ヲ爲スヘキモノニシテ通常裁判所ノ管轄ニ屬セサルモノトス(大審大正八年法一五三五號二六頁)
- 二 判決前軍人タル身分取得ノ場合ト管轄(本卷(リ)陸軍軍法會議法二條)

◎軍法會議ト管轄指定ノ申請

普通裁判所ト軍法會議ト共ニ管轄違ノ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ管轄指定ノ申請ヲ爲スノ途ナシ(司法省參事官二十七年甲第一三九號回答)

第七條 歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ハ召集中ノ外軍人ノ例

◎現役ニ在ル軍人ノ意義

現役ニ在ル者トハ現ニ隊伍ニ在リテ兵役ノ任務ニ服從スル者ヲ

第二十六條 軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ス
在官在役中ノ犯罪ト雖モ免官免役ノ後告訴發アリタルトキハ普通裁判所ノ裁判ニ付ス

◎豫備ノ軍籍ニ在ル者ノ裁判權

豫備ノ軍籍ニ在ル者カ召集中ノ身分ナリシ故チ以テ普通裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ非ストシ管轄違ノ判決ヲ言渡サレタル場合ニハ一方ニ於テハ其判決確定スルモ他方ニ於テ被告カ一旦召集解除ト爲リ身分ニ變更ヲ生シタル以上ハ普通人トシテ之ヲ取扱フヘキハ當然ニシテ爾來其裁判籍ハ普通裁判所ニ屬スルモノトス(大審三八年刑八二五頁)

ニ依ルコトヲ得ス

陸軍治罪法

(明治二十一年法律第二號)

第一條 軍人ノ犯シタル重罪輕罪ノ審判及ヒ違警罪ノ正式裁判ハ軍

第九十七條 兵役ヲ免ルル目的ヲ以テ疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ其
他詐爲ノ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
(參照)

舊第二百二十四條 軍人疾病ヲ作爲シ身體ヲ毀傷シ兵役ヲ免ルルコ
トヲ圖ルモノハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

◎本條ニ該當スル舊法ノ解釋

陸軍刑法(舊)第二百二十四條ニ「疾病ヲ作爲シ」トアルハ故意
ニ疾病ノ原因ヲ作リテ發病シタル場合ノ外疾病ナキニアルカ
如ク詐ハリ以テ兵役若クハ召集ヲ免レントスル場合チモ包含セ
ルモノトス(大審三九年刑八五三頁)

謂フ故ニ未タ入營セサル者ハ兵役ノ任務ニ服従スルコト能ハサル者ナレハ召集命令ヲ受ケテ或隊伍ニ編入セラレタル場合ト雖モ尙ホ未タ現役ノ軍人ナリト謂フヘカラス陸軍治罪法第二十六條ニ於テハ軍人任官就役前ノ犯罪ト雖モ在官在役中ハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判ストアルヲ以テ軍人就役前ノ犯罪ニ付テハ其在役中即チ現ニ隊伍ニ在リテ兵役ノ任務ニ服従スル場合ニアラサレハ軍法會議ニ於テ管轄權ヲ有セサルコト毫モ疑義ノ存セザル所ナリ(大審三八年刑四二〇頁)

◎召集後發覺シタル場合ノ裁判管轄

陸軍豫備後備將校召集中ノ犯罪ト雖モ其召集終リタル後發覺シタルトキハ普通裁判所ノ管轄ナリトス

〔附〕前項事件ト共ニ被告人ヲ檢事ニ送致シ來リ檢事受理ノ手續ヲ了シタル後ハ理事ノ發シタル收禁狀ニ依リ被告人ヲ拘禁スルヲス(司法大臣三五年民刑甲第五四號訓令)

第六十一條一項 理事、被告人、證人、事實、參考人ヲ訊問シ、若クハ臨檢家宅、捜査物件押收ノ處分ヲ爲ストキハ、録事之ニ立會ヒ、調書ヲ作り、訊問及供述ヲ錄取シ、被告人、證人、事實、參考人ニ請示ス可シ

陸軍軍法會議法

(大正十年法律第八十五號)

第一條 軍法會議ハ左ニ記載シタル者ニ對シ其ノ犯罪ニ付裁判權ヲ有ス

- 一 陸軍刑法第八條第一號乃至第三號、第四號後段、第五號及第九條ニ記載シタル者

第二條 軍法會議ハ前條ニ記載シタル者ニ對シ其ノ身分發生前ノ犯罪ニ付亦裁判權ヲ有ス

軍法會議ハ前條ニ記載シタル者其ノ身分ヲ喪失シタルトキト雖身分繼續中捜査ノ報告アリ又ハ逮捕、勾引若ハ勾留セラレタルトキハ其ノ者ニ對シ亦裁判權ヲ有ス

第六條 軍法會議ハ戰時事變ニ際シ軍ノ安寧ヲ保持スル爲必要アルトキハ第一條ニ記載シタル以外ノ者ニ對シ犯罪ニ付裁判權ヲ行フ

◎軍法會議ノ調書ト方式

陸軍軍法會議理事カ刑事事件ニ關スル調書ヲ作成スル場合ニハ陸軍治罪法ノ法則ニ遵由スヘキモノトス從テ其調書ニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ違背スルモ不法ニアラス(大審二九年九卷刑二九頁)

第九十三條一項 禁錮以上ノ刑ニ該リタル被告人其宣告ヲ受ケテ逃走シ若クハ前條第二項ニ依リ宣告アリタル者禁錮以上ノ刑ニ該ルトキハ理事逮捕狀ヲ發スヘシ

◎逮捕狀ト其ノ執行

一 軍法會議ニ於テ關席判決ヲ爲シタル者ニ對シ理事ハ逮捕狀ハ之ヲ發スルヲ得ルモ勾引狀ハ發スルヲ得ス(民刑局長二六年甲第二六號回答)

二 軍法會議ニ於テ關席判決ヲ爲シタル者ニ對シ理事ノ發シタル逮捕狀ヲ以テ其執行ヲ司法警察官ニ囑託スルコトヲ得(民刑局長二六年甲第一九號回答)

コトヲ得

◎判決前軍人タル身分取得ノ場合ト管轄

一 裁判所構成法第二條ニ通常裁判所ニ於テハ民事刑事事ヲ裁判スルモノトス但シ法律ヲ以テ特別裁判所ノ管轄ニ屬セシメタルモノハ此限ニ在ラズト規定セルヲ以テ通常裁判所ハ法律上特別裁判所ノ管轄ニ屬スル事件ニ付裁判權ヲ有セザルコト明カナリ隨テ特別裁判所タル陸軍軍法會議ノ裁判權ニ屬スル事件ハ通常裁判所ニ於テ之カ裁判ヲ爲スヲ得サルモノトス隨テ陸軍軍法會議法ヲ案スルニ同法第二條ニ軍法會議ハ陸軍ノ現役ニ在ル者其ノ他第一條ニ記載セル者ニ對シ其ノ身分發生前ノ犯罪ニ付裁判權ヲ有スル旨ヲ規定セルヲ以テ陸軍ノ現役ニ在ル者カ其ノ身分ノ發生前ニ犯シタル罪ニ付テハ軍法會議之カ裁判權ヲ有スルコト明カナリ故ニ叙上ノ犯罪ニシテ一旦通常裁判所ノ裁判權ニ屬シタルモノモ當該犯罪者カ軍人タル身分ヲ取得シタル後ハ軍法會議之カ裁判權ヲ有シ其ノ結果通常裁判所ノ裁判權ハ排除セラレ同裁判所ハ之カ裁判ヲ爲スコトヲ得サルニ至ルモノトス(大審大正一五年刑三〇二頁)

二 而シテ陸軍軍法會議法第六條ニ依リ軍法會議カ常人ノ犯シタル罪ニ付裁判權ヲ行フコトヲ得ル場合ニハ通常裁判所モ亦此犯

罪ニ付裁判權ヲ行フコトヲ得ルヲ以テ斯ル犯罪ノ内容トスル同一事件ハ即チ刑事交法第五條ニ所謂通常裁判所ノ裁判權及軍法會議ノ裁判權ニ屬スル同一事件ニ該當スルモノニシテ軍法會議ノ裁判權ニ專屬スル軍人ノ身分發生前ノ犯罪ニ付テハ同法條ノ適用ナキコト論テ俟タス記録ヲ查スルニ被告人ハ本件起訴當時常人ナリシモ原審ニ繫屬中大正十五年一月二十日現役兵トシテ北方野戰重砲兵第五聯隊第六中隊ニ入營シ目下在營中ナルコト明カナレハ本件ハ被告人カ軍人タル身分ヲ取得スル前ニ犯シタル行爲ヲ對象トナスモ陸軍軍法會議法第二條ニ依リ軍法會議之方裁判權ヲ有シ通常裁判所ハ裁判權ヲ有セサルコトトナリタルヲ以テ原審ハ刑事訴訟法第三百六十四條第一號ニ依リ公訴ヲ棄却ストノ判決ヲ爲スヘキ筋合ナルニ被告人ニ對シ有罪ノ判決ヲ爲シタルハ失當ニシテ論旨ハ理由アリ原判決ハ破毀ヲ免レス(同上)

陸軍軍人服役令施行規則

(明治四十四年陸軍省令第十六號)

第二條第一項 待命、休職、停職ノ將校、准士官、豫備役、後備役將校、准士官、下士、兵卒、歸休兵、又ハ補充兵役ニ在ル者十四日以上本籍地外ニ旅行、滞在若ハ寄留又ハ外國ニ旅行若ハ在留スルトキハ前條ニ準シ

通報人ヲ定メ出發前連署ヲ以テ其ノ行先ト共ニ本籍地所管ノ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

◎本條ノ解釋

一 十四日以上本籍地ヨリ樺太ニ赴キ同地ニ滞在セントスル者ニシテ陸軍軍人服役令施行規則第二條第一項ニ依リ届出ヲ爲ササルトキハ同則第六十一條ノ處罰ヲ免レサルニ止マリ其滞在力不定期間居住ノ目的ニ出テタルトキハ本人ヲ以テ同規則ニ所謂樺太在住者ナリトスルヲ妨ケサルヲ以テ斯ル在留者ハ同規則附則ニ依リ演習召集ニ應スヘキ義務ナキモノトス(大審大正九年刑二〇〇頁)

二 陸軍軍人服役令施行規則第二條ノ「十四日以上本籍地外ニ旅行云々」トアルハ其届出ヲ怠リタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リ公訴權消滅スルノ趣旨ニ非ス其旅行ヲ了リ本籍地ニ歸著シタル日ヨリ其期間ヲ計算ス可キモノトス(法務局長大正二年刑乙二四〇八號回答)

◎本條ニ所謂寄留ノ意義

一 陸軍軍人服役令施行規則第二條ニ所謂寄留ハ最初爲ス寄留ト

本籍地ニ復歸後ニ於テ更ニ爲ス寄留ト指示スルモノニシテ寄留地ヨリ直ニ他ノ地ニ寄留スル場合ヲ包含セサルモノトス(大審大正一〇年評論一〇卷諸法一二七頁)

二 本規則第二條第一項ハ補充兵役ニアル者ニ對シテハ補充兵役ニアル者カ寄留シタルトキハ通報人ヲ定メテ其届出ヲ爲スヘキ義務ヲ認メタルニ過キスシテ補充兵役ニ編入セラレル前既ニ爲シタル寄留ニ付テハ補充兵役ニ編入セラレタル後ハ其届出ヲ爲スヘキコトヲ定メタルモノニ非スト解セサルヘカラス故ニ補充兵役ニアル者ト雖モ其編入前ニ爲シタル寄留ニ付届出ヲ爲ササルモ同法第一項違反ノ罪ハ成立セサルモノナリ(東京地大正一二年法二一六〇號一九頁)

◎本條違反罪ノ性質及公訴時効

陸軍軍人服役令施行規則第二條違反ノ罪ハ同條所定ノ軍人カ所轄聯隊區司令官ニ届出ヲ爲サスシテ本籍地ヲ出發セル瞬間ニ完成スヘキ即時犯ナルヲ以テ該違反行爲ニ對スル公訴ノ時効ハ無届ノ儘本籍地ヲ出發シタル日ヨリ進行スヘキモノトス(大審大正三年刑二四八九頁)

第四條 待命、休職、停職ノ將校、准士官、豫備役、後備役將校、准士官、下士、兵卒、歸休兵、又ハ補充兵役ニ在ル者ニシテ旅行滞

◎本條ノ解釋並ニ二條トノ關係

一 陸軍軍人服役令施行規則第四條ニ旅行滞在寄留又ハ外國ニ在留シタル者トアルハ同條所定陸軍軍人ニシテ上叙ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ汎稱シ其行爲ニ付キ同規則第二條ニ依リ正規ノ届出ヲ爲シタル者ト否ラサル者トヲ甄別セサル旨趣ナリト解スヘキモノトス(大審一〇年刑一七七頁)

二 陸軍軍人服役令施行規則第二條ニ於テ定ムル届出義務ノ違背ト同第四條ニ於テ定ムル届出義務ノ違背トハ全然別箇ノ不作爲犯ニシテ縱令事實上ノ關係ヲ存スルモ法律上其間ニ何等不可分のノ關係存スルコトナケレハ夫ノ無届寄留ノ罪カ届出ヲ爲サザリシ即時ニ成立シ其後ニ於テ繼續セル無届寄留ノ狀態カ別ニ犯罪ヲ構成セサルトハ固ヨリ同一ニ論スヘカラサルモノトス(大

審大正一〇年刑一七七頁)

領事官ノ職務ニ關スル法律

(明治三十二年法律第七十號)

第六條 條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ第七條乃至第十七條ノ規定ニ從ヒ訴訟事件並非訟事件ニ關スル事務及登記事務ヲ行フ

◎本條ノ旨趣

明治三十二年法律第七十號第三條及ヒ第六條ノ規定ハ領事官カ日本ノ裁判權ニ服スル者ノ間ニ於ケル事件ヲ裁判スルニ當リテハ其内國人タルト外國人タルトチ同ハス又法律關係カ何レノ地ニ於テ發生シタルヤチ論セス常ニ我國ノ法令ヲ適用スヘキコトヲ命シタルモノニ非ス(大審四一年民七九五頁)

◎領事官補ト領事裁判

外交官及領事官ノ官制上領事官補モ領事官ノ一タルコトハ明カナレトモ領事官補カ領事代理トシテ訴訟事件ニ付裁判ヲ爲シ得ルコトハ明治三十二年三月二十日法律第七十號領事官ノ職務ニ關スル件第三條第六條及第十九條ニ依リ之ヲ知ルコトヲ得(大審一五年民三五七頁)

◎領事裁判ト憲法ノ條規(諸法令上卷三八七頁)

領事官職務規則

(明治三十二年勅令第五百十三號)

第十條 領事官ハ其駐在國ノ官廳又ハ公署ノ發シタル文書ノ眞正ヲ證明スルコトヲ得

◎領事ノ職務權限

日本領事ハ領事官職務規則第十條ノ規定ニ依リ愛國最高法院司書官ノ署名ヲ證明スヘキ職務權限ヲ有ス(大審四二年民一七五

頁)

和歌山縣輸出綿織物検査

規則

◎本規則第一條及第三條ノ法意

- 一 和歌山縣輸出綿織物検査規則第一條ニ所謂本縣ニ於テ生産シタル輸出綿織物トハ單ニ製織ヨリ仕上ニ至ルマテノ工程ヲ全部同縣内ニ於テ經由シタルモノノミヲ指稱スル趣旨ニアラスシテ他府縣ニ於テ製織シタル生地ヲ縣内ニ搬入シ之ニ染色加工ヲ施シ輸出綿織物トシテ縣外ニ搬出スル織物ノ如キ亦之ヲ包含スルモノト認ムルチ相當トス(大審大正八年刑五四八頁)
- 二 和歌山縣輸出綿織物検査規則第三條ハ縣外ニ搬出セントスル輸出織物ハ必ス検査済ノモノタルコトヲ要シ若シ検査未済ノ同織物ヲ縣外ニ輸出スルニ於テハ其搬出者カ該織物ノ所有者タルト捺染業者タルト又ハ其他ノ輸出綿織物ニ關スル營業ヲ爲ス者タルトチ同ハス盡ク同規則第二八條所定ノ制裁ヲ免ルルチ許ササル律意ナリト解スルチ相當トス(同上)

諸法令下 (ワ) 和議法

一條

和議法

(大正十一年法律第七十二號)

第七條 和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス

◎和議手續ニ關スル裁判ト抗告

- 一 破産法第百十二條ハ和議法ニ準用セラレルモノニアラサルノミナラス和議法第十一條第二項ハ和議法ニ別段ノ定メナキ場合ニ限リ民事訴訟法ヲ準用スヘキコトヲ定メタルモノニシテ而モ和議手續ニ關スル裁判ニ對シ抗告ヲ爲シ得ヘキヤ否ヤニ付テハ和議法第七條ノ規定スルトコロナルチ以テ右第二項カ前記抗告ニ付其ノ適用ナキハ言テ俟タス(大審昭和三年法二八四五號一四頁)
- 二 和議法第七條ニハ和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ト規定シアリ

一九九九

テ同法中和議開始ノ申立テ却下シタル裁判ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ旨ノ規定ナキヲ以テ斯ル裁判ニ對シテハ其ノ理由ノ如何ヲ問ハス抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノト謂ハサルヲ得ス抗告人ハ同法第十一條第二項ニ依リ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシト論スレトモ同條項ノ規定ハ第七條ニ所謂特別ノ規定ナリト解スルヲ得サルヲ以テ其ノ所論ハ理由ナシ(大審大正一四四年法二四二四號一七頁)

第十一條 破産法第二條、第三條、第九條乃至第一百一條、第十三條乃至第一百八條及第二百二十五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス
和議手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定メナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス

◎和議事件ト再抗告

和議事件ノ再抗告ニ付キテハ和議法第十一條ノ規定ニ依リ民事訴訟法第四百五十六條第二項ノ規定ヲ準用スヘキモノナレハ抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ其ノ裁判ニ因リ新ナル獨立ノ抗告理由ヲ生シタルトキニ非サレハ更ニ抗告ヲ爲スコトヲ得サルモノ

トス而シテ其所謂新ナル抗告理由トハ抗告裁判所カ不適法トシテ抗告ヲ棄却シタルカ下級裁判所ノ裁判ト反對ノ裁判ヲ爲シタルカ又ハ裁判所構成法ノ規定若クハ重要ナル手續ニ違背シテ裁判ヲ爲シタル場合ヲ指稱ス(大審大正一三三年法二三三五號一八頁)
◎再抗告ノ理由(民訴法三八四頁)

◎破産手續ニ關スル裁判ト抗告(第七條)

第十二條 破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債務者ハ和議開始ノ申立テ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス
相續財産ニ付テハ和議開始ノ申立テ爲スコトヲ得ス

◎清算法人ト和議申立ノ能否

解散シタル法人ノ清算人ハ和議ノ申立テ爲スコトヲ得ルモノトス蓋シ和議法第十二條第一項後段ニ所謂理事ニ準スヘキ者ニハ清算人ヲ包含スルコト自明ナレハナリ(法曹會決議昭和二年法曹會雜誌五卷五號一四一頁)

整理委員ハ自己ノ責任ヲ以テ鑑定人ヲ選任スルコトヲ得

◎意見書ヲ徵セサル和議開始決定

和議開始ノ申立アリタルトキハ其ノ申立テ棄却セサル場合ニ於テハ裁判所ハ整理委員ヲシテ和議條件ニ付必要ナル調査ヲ爲サシメ且和議ヲ開始スヘキヤ否ニ付意見書ヲ提出セシメサルヘカラサルモノナレハ右手續ヲ履踐セスシテ爲シタル和議開始ノ決定ハ不適法ナルモノトス(東京地大正一五年法二六二八號一六頁)

第四十條 和議手續中ハ和議債權ニ付債務者ノ財産ニ對シ強制執行、假差押又ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ス

和議開始前和議債權ニ付債務者ノ財産ニ對シ爲シタル強制執行、假差押及假處分ハ和議手續中ニテ中止ス

◎和議手續中ノ強制執行ノ效力

一 和議法第四十條第一項ノ規定ニ依リ和議債權者ハ其ノ債權ニ

第十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立テ爲スコトヲ得ス

◎和議成立ノ效力ト破産申立トノ關係

甲ノ債務ニ關シテ和議成立シタルトキハ其和議ハ甲ノ債權者ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ生シ同人ニ對スル破産ノ申立ハ其ノ效力ヲ失フト共ニ債權者ハ從前ノ債權ニ付破産ノ申立テ爲スコトヲ得サルモノナルヲ以テ假令甲第六號證ノ如ク甲ノ債權者ノ或者カ破産ノ申立テ爲シタル事實アリトスルモ斯ル申立ハ效力ヲ有セサルモノニシテ從テ之カ爲ニ甲ノ債務ニ付示談解決セサルモノト謂フヲ得サルモノトス(大審昭和二年法二六六四號一五頁)

第二十一條 裁判所ハ整理委員ヲ選任シ期間ヲ定メテ債務者ノ財産帳簿及和議ノ條件ニ付必要ナル調査ヲ爲サシメ且和議ヲ開始スヘキカ否ニ付意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

付債務者ノ財産ニ對シ強制執行ヲ爲シ得サル事明カナリ而シテ該規定ハ債務者ノ財産ノ散逸ヲ防止シ和議ノ決議ヲ容易ナラシメ以テ和議ノ成立ヲ期セシムル爲設ケラレタル強行規定ト解スヘキカ故ニ之ニ反シテ爲シタル強制執行ハ當然無効ナリト解スヘキモノトス(東京地大正一五五年法二五八四號六頁)

- 二 和議法第四十條第一項ノ規定ニ依レハ和議手續中ハ和議債權ニ付債務者ノ財産ニ對シ強制執行ヲ爲スヲ得サルコト明白ナリト雖モ當該債務名義ノ内容タル債權カ和議債權ナリヤ否ヤハ執行裁判所カ其債權ノ差押及轉付命令ヲ發スルニ當リ之レヲ審理スヘキ義務ヲ有スルモノニアラサルト共ニ其轉付命令ノ送達ヲ受ケタル第三債務者ニ於テモ亦之カ危險ヲ負擔スヘキ筋合ナキヲ以テ苟モ執行力アル債務名義ニ基キ其強制執行トシテ適法ニ發セラレタル債權差押及轉付命令ハ更ニ適法ナル手續ニ依リ其執行ヲ停止シ又ハ之ヲ取消サザル限リ之ヲ債務者及第三債務者ニ送達スルト同時ニ當然法律所定ノ效力ヲ生スルモノニシテ縱令其執行ノ基本ト爲リタル債務名義ノ内容タル債權カ和議債權ナリトスルモ之カ爲メ該差押及轉付命令ハ當然無効タルヘキモノニアラス(名古屋控大正一五五年報八五號一四頁)
- 三 差押債權者カ其差押及轉付命令所定ノ效力トシテ轉付債權ヲ取得スルト同時ニ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受ケタルモノト看做サルルハ轉付命令ノ基本ト爲リタル債務名義ニ基キ執行ノ爲メニ債務者カ斯クノ如キ辨濟方法ヲ強制セラレタルニ因ルモノナルカ

命令ヨリ生スヘキ客觀的實體的效果ノ發生ヲ否認シ以テ差押債權者ノ保證金返還支拂請求ヲ拒絕シ得ヘク又若保證金カ甲供託局ノ手中ニ存在スルトキハ縱令之ニ對スル差押命令及轉付命令カ發セラレタリトモ其ノ客觀的實體的效果ノ發生ヲ否認シテ債務者タル倉庫銀行ハ甲供託局ニ對シ自ラ保證金返還請求ヲ行使スルコトヲ得ルモノトス……叙上ノ場合ニ於テ差押命令及轉付命令ヲ適法ナルモノト信シテ之カ支拂ヲ爲シタルハ恰モ民法第四七八條ニ所謂債權ノ準占有者ニ爲シタル辨濟ナリト謂フヘク其ノ善意ナル限リ其ノ辨濟ハ有效ナリトス(加藤博士評論一七卷諸法三五四頁)

第四十二條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ハ之ヲ和議債權トセス

◎和議ノ認可ト優先債權者ノ利害

抵當權若ハ質權アル債權ハ和議法第四十二條ニ所謂一般ノ優先權アル債權ニシテ是等ノ債權ハ同條ノ規定ニ依リ之ヲ和議債權トセス然リ而シテ和議ハ和議債權ノ全員ノ爲メ只其全員ニ對シ效力ヲ有スルノミニシテ敢テ一般ノ優先權アル債權者ニ及ハス

諸法令下卷終

故ニ其債務名義ノ内容タル債權カ和議債權ニシテ之ニ基ツク債權差押及轉付命令ノ發セラレタル當時和議手續中ナル場合ニ在リテハ差押債權者ハ當時其債權ノ強制執行權ヲ有セス即チ強制執行ノ方法ニ依リテハ債務者ニ對シ其辨濟ヲ強制スルコト能ハサルニ拘ラス該債權ニ基キ敢テ之カ強制執行ヲ爲シタル結果第三者タル供託局ヨリ債務者權利ニ屬スル保證金ノ支拂ヲ受ケタルモノナレハ其受益ハ畢竟法律上ノ原因ナクシテ債務者ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケタルモノニシテ之カ爲メ債務者ヲシテ供託局ニ對スル保證金返還請求權ヲ喪失セシメ因テ損害ヲ蒙ムラシメタルモノナレハ民法所定ノ不當利得者トシテ債務者ニ對シ其受益ヲ返還スヘキ義務アルモノト謂ハサルヘカラス(同上)

四 (右二及三ノ批評) 強制執行ノ申請ヲ受ケタル執行機關ニ在リテハ執行裁判所ナルト執達吏ナルトヲ問ハス其ノ執行債務者カ破産手續中ニ在リヤ將タ和議手續中ニ在リヤハ之ヲ審査セサルヘカラサルモノナルヲ以テ破産又ハ和議ノ手續中ナルニ於テハ債權者ハ債務者ニ對シ執行ヲ開始シ得サルヘク執行機關ハ之カ執行申請ヲ却下スヘキモノトス……和議手續中ニ在ルニ拘ラス誤テ執行ノ申請ヲ容レ差押命令及轉付命令カ發セラレタルニ至リタル場合ニ於テハ該命令ハ不適法トシテ取消サレ得ル狀態ニ在リ從テ適法且完全ナル場合ニ於ケル法律所定ノ實體の效力ヲ發生スルコトヲ得サルモノトス……叙上瑕疵ノ件ヒタル差押命令及轉付命令ノ發セラレタル場合第三債務者タル甲供託局ハ右

蓋一般ノ優先權者ハ和議條件ノ如何ニ拘ラス何等權利ノ消長ヲ招來スルコトナケレハ從テ新ル債權者ハ和議ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スルモノニアラス (東京地昭和二年報一二〇號二〇頁)

補遺

巖手縣縣稅納稅義務者取

締規則

第三條 營業稅又ハ雜種稅ノ賦課ヲ受クヘキ營業者ハ行爲ヲ爲シ又ハ物件ヲ所有シ使用スル者ハ左ニ該當スル事項ヲ記シ納稅義務發生ノ日ヨリ十日以内ニ届出ツヘシ

- 一 營業、行爲、物件ノ種類名稱
- 二 課稅標準
- 三 營業場、行爲地、物件ノ所在地
- 四 納稅義務發生ノ年月日及事由

前項ニ依リ届出タル事項ニ異動ヲ生シ又ハ住所氏名ヲ變更シ若ハ納稅義務消滅シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ

第七條 左ニ掲クル營業者クハ行爲ヲ爲シ又ハ物件ヲ取得シタルトキハ市ニ在リテハ知事ヨリ町村ニ在リテハ所轄郡長ヨリ第二十六號乃至第三十號様式ノ鑑札ヲ受クヘシ但シ自轉車鑑札ハ納稅地所轄外ニ於テモ其旨届出捺付ヲ受クルコトヲ得

八 自轉車

第八條 自轉車ノ鑑札ハ車體ニ捺付ヲ受ケ之ヲ露出シ置クヘシ

第十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ貳拾圓未満ノ科料ニ處ス

- 一 第二條第三條ノ期限内ニ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シタル者
- 二 第四條但書第五條ニ依リ届出ヲ命シタル場合ニ於テ届出ヲ爲サス又ハ虛偽ノ届出ヲ爲シタル者
- 三 第八條乃至第十條第十三條ノ規定ニ違背シタル者
- 四 無効ノ鑑札又ハ標札ヲ使用セル者
- 五 車體ニ捺付ケタル自轉車鑑札ノ位置ヲ變更シ又ハ車體ヨリ離脱シタル自轉車鑑札ニ加工シ若クハ其他ノ方法ニ依リ車體

ニ捲付ケ使用シタル者

◎巖手縣令ノ自轉車鑑札ヲ受クヘキ時期

岩手縣令無稅納義務者取締規則第七條ニハ自轉車ヲ取得シタル者ハ成規ノ鑑札ヲ受クヘキ旨規定シアリテ其ノ之ヲ受クヘキ時期ニ付明規スル所ナキヲ以テ自轉車ノ取得者ハ其ノ取得ト同時ニ鑑札ノ下付ヲ受ク同則第八條第三項ニ依リ之ヲ車體ニ捲付ケ露出シ置カサルヘカラサルモノナルカ如シト雖同規則ニ於テ雜種稅ノ賦課ヲ受クヘキ物件ヲ所有シ使用スル者ハ課稅標準其ノ他ノ事項ヲ申告スルノ義務アル外特ニ自轉車其ノ他ニ關シテ鑑札ノ下付ヲ受クヘキモノト爲シタルハ鑑札ニ依リテ納稅義務者並之ニ關スル届出ノ有無ヲ識別シ以テ無稅納義務者取締ノ目的ヲ達セントスルノ趣意ニ外ナラスシテ右申告ニ先チテ之カ下付ヲ受クルコトヲ命シタルモノト解スヘキニ非ス而シテ申告ハ納稅義務發生ノ日ヨリ十日以内ニ爲セハ足ルモノナルヲ以テ自轉車ヲ取得スルモ即時ニ鑑札ノ捲付ヲ受クルコトヲ要セス申告期間中ニ申告ヲ爲スト同時ニ其ノ手續ヲ受クルヲ以テ足レリトス(大審大正一一年刑三二頁)

衆議院議員選舉法(舊)

第二百二條

◎改正前ノ衆選一〇二條ノ停止ト效力

改正前ノ衆議院議員選舉法第一〇二條第一項ハ專ラ衆議院議員ノ選舉權被選舉權ノ停止ニ關スルモノニシテ其他ノ議員ノ選舉權及被選舉權ノ停止ニ關スルモノニ非ス而シテ町村制第三十七條カ右ノ規定ヲ準用スルモ衆議院議員ノ選舉ニ關シ罪ヲ犯シタル者カ一定ノ期間町村會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ停止セラレヘキモノニ非ス(行政昭和二年法二七九三號一〇頁)

衆議院議員選舉法

第一百八條

◎投票干渉ノ不制止ト不作爲ニ因ル從犯

法律ノ不知ハ其ノ無識輕卒ニ因ルト否ト問ハス犯意ヲ阻却スル事由トナラス又不作爲ニ因ル幫助犯他人ノ犯罪行為ヲ認識

シナカラ法律上ノ義務ニ違背シ自己ノ不作爲ニ因リテ其實行ヲ容易ナラシムルニヨリ成立シ犯罪ノ實行ニ付相互間ニ意思ノ連絡又ハ共同ノ認識アルコトヲ必要トスルモノニ非ス而シテ原列示ノ事實ニ依レハ被告人ハ奥村文弘ノ列示投票干渉ヲ現認シナカラ法律上ノ義務ニ違背シ之ヲ制止セス因テ右文弘ノ干渉行為ノ遂行ヲ容易ナラシメタルモノナレハ罪トナルヘキ事實ニ付認識アリシハ勿論其ノ不作爲タルヲ過失ニ出テタルモノト認ムヘカラサルコト言フテ俟タス(大審昭和三年刑一七二頁、法二八四二號一〇頁)

大正七年勅令第二百二十

九號

第十一條ノ二(略)

◎決濟方法ニ關スル本條ノ法意

一 大正七年勅令第二百二十九號第十一條ノ二カ仲買人ハ委託者ノ指圖ニ依ラスシテ轉賣又ハ買戻ヲ爲スコトヲ得スト定メタル所以ハ一方ニ於テ仲買人ニ對シ此ノ如キ轉賣又ハ買戻ヲ爲スヘカラサルコトヲ命シタルト共ニ他方ニ於テ從來仲買人ハ客ノ委

諸法令下 補遺 大正七年勅令第二百二十九號 一一條ノ二

二〇〇七

ニ係ル建玉ヲ必シモ取引所ニ於テ維持スルコトヲ要セス仲買人ト取引所間ニ於テ之ヲ順次落利益落即日落等ノ方法ニヨリ他ノ賣買ト決濟消滅セシムルモ結局客ノ手仕舞玉ニシテ取引所ニ差出サレ或ハ客ノ注文ニ依リ買建玉ニ相當スル現物ノ受渡ヲ爲ストキハ當該賣買ハ終始委託ノ趣旨ニ副フモノト爲シタル慣行ヲ否定シ如上決濟方法ヲ以テ委託ニ係ル建玉ヲ消滅セシムルハ賣買委託ノ本旨ニ適セサルモノトシ之ニ副フカ爲ニハ建玉ハ必ス其ノ轉賣買戻ニ付委託者ノ指圖アル迄之ヲ取引所ニ維持スヘキモノト定メタルニ在リニ同法ノ法意ハ決シテ此ノ如キ方法ニ依リテ決濟セラレタル賣買ヲ無効ナルモノトスル趣旨ニアラス(大審昭和二年法二七二三號六頁)

二 故ニ仲買人カ客ノ爲ニ爲シタル建玉ヲ其ノ委託ナキニ不拘順次落等ニ依リ他ノ取引ニ係ル買賣玉ト差引決濟シタル場合ニ於テハ委託ニ依ル建玉ハ取引所ニ對シテハ勿論客ニ對スル關係ニ於テモ亦消滅シ其ノ後客ヨリ手仕舞又ハ受渡ノ申出アルモ仲買人ハ其ノ注文ニ應スルコト能ハサルニ至ルモノニシテ假令右決濟ノ前後ニ於テ仲買人カ前示建玉ニ相當スル他ノ建玉ヲ爲スモ之ヲ以テ彼ニ替フルコトヲ得サルモノト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ原列決カ本件ニ付順次落ニ依リ所論建株カ他ノ賣買ト決濟セラレタル事實ヲ肯認シタル以上右建株カ之ニ依リ消滅シ此ノ建株ニ關スル賣買ニ付テハ委託當事者ノ契約履行ニ因ル損益計算ヲ爲シ得サルモノト論決シタルハ正當ナリ(大審昭和二

年法二七二三號六頁)

電話至急開通規則

第十四條 至急開通ノ電話ハ通信大臣ニ於テ已ムテ得サルモノト認
メ特ニ許可シタル場合ノ外開通後五箇年ヲ經過スルニ非サルハ其
ノ名義又ハ設置場所ヲ變更スルコトヲ得ス

◎處分禁止期間内ノ電話加入權ノ競賣

一 原審ノ確定セル事實ニ依レハ債權者明治産業株式會社債務者
阿部勇五郎第三債務者仙臺郵便局間ノ仙臺區裁判所大正八年
(ル)第三號債權差押事件ノ競賣ニ於テ被告上告人(被控訴人原
告)カ右債務者名義ノ仙臺局電話第一五一四番電話加入權ヲ競
落シテ支拂ヒタル競落代金中ヨリ上告人(控訴人、被告)啓之助ハ金
ハ金二百六十一圓八十二錢上告人(控訴人、被告)啓之助ハ金
百六十九圓十錢(原判決ニ此ノ十錢ヲ四十錢ト記載セルハ誤記
ト認ム)ノ各配當ヲ受ケタルモ右電話ハ電話至急開通規則ニ基
キ大正七年十一月一日架設開通シタルモノニシテ爾後五年ノ處

分禁止期間内ニ右ノ競落アリタルモノナリサレハ其ノ競落ヲ爲
スモ右禁止期間内ハ特ニ通信大臣ノ許可ナキ限リ其ノ電話加入
權ノ移轉ヲ來スコトナキコト勿論ナリト雖之カ爲其ノ競落ヲ以
テ當然無効ナルモノト爲スヲ得ス (大審昭和三年民一〇三〇
頁)

二 蓋強制競賣ハ民法上債務者カ競賣ノ目的物ヲ競落人ニ賣渡ノ
契約ヲ爲シタルト同一ノ效果ヲ生スルモノナルカ故ニ若債務者
ニ於テ其ノ目的物タル自己ノ財產權ヲ競落人(買主)ニ移轉ス
ルコト絕對ニ不能ナル場合ニ在リテハ賣買ノ效力ヲ生セサルコ
ト勿論ナリト雖或ル期間ノ經過ヲ俟チ又ハ其ノ期間内ニ第三者
ノ許可ヲ得テ之ヲ移轉シ得ル場合ニ於テハ豫メ其ノ讓渡ノ契約
ヲ爲スコトヲ禁スル法規ナキ限リ其ノ競賣ハ賣買ノ效力ヲ生シ
債務者ハ第三者ノ許可ヲ得テ其ノ財產權ヲ競落人ニ移轉スヘキ
義務ヲ負ヒ其ノ許可ヲ得シテ右ノ期間ヲ經過スルトキハ其ノ
經過ト俱ニ右財產權ハ當然競落人ニ移轉スヘキ效力ヲ生シ他ノ
一面ニ於テ競落人ニ競落代金支拂ノ義務ヲ負ハシムルノ效力ヲ
生スルモノト解スルヲ相當トシ此ノ解釋ハ民法第五百六十條乃
至第五百六十八條ノ規定ノ精神トモヨク調和スルモノト云フヘ
シ(同上)

三 而シテ本件電話開通當時ノ電話至急開通規則ニ基キテ架設開
通シタル至急開通電話ニ付テハ五年ノ處分禁止期間内ニ於テ期
間經過後ノ讓渡ヲ豫メ契約スルコトヲ禁スル法規アルコトナキ

土地收用法

第六十五條 ◎抵當地所有者ト損失ノ補償額

一 抵當權ノ目的タル土地カ土地收用法ニ依リ收用セラレルモ抵
當權ハ之カ爲ニ直ニ消滅スルコトナク却テ抵當權者ハ土地所有
者ノ有スル補償金請求權ヲ差押ヘ其ノ上ニ權利ヲ行ヒ得ルコト
ハ土地收用法第六十五條ニ微シ明ナル故ニ之ニ依ルモ土地ニ抵
當權ノ存スル場合ニテモ該土地ノ所有者カ有スル補償金請求權
ハ單ニ土地ニ代ハルモノトシテ抵當權ノ行使ヲ受クルニ止リ其
ノ補償ヲ求メ得ル金額自體ハ初メヨリ抵當權ノ存セサル場合ト
同様收用時期ニ於ケル土地ノ價格ノ全部ニシテ何等減額ヲ受ク
ヘキモノニ非サルコトヲ知ルニ足ルヘシ(大審昭和三年民一〇
六一頁)

二 然レハ本件ニ於ケル收用審査會ノ決定カ原判決說示ノ如ク土
地所有者タル上告人及抵當權者タル訴外人等ニ對シ單一ナル補
償金額ヲ決定シタルモノトスルモ其ノ趣旨タル該金額ノ一部ハ
抵當權者カ土地ノ收用ニ因リ被リタル損害ノ補償トシテ受クヘ
キモノニシテ土地所有者タル上告人ハ其ノ殘額ニ付テノ權利
ヲ有スルニ過キスト爲シタルモノニ非スシテ寧ロ土地所有者タ

カ故ニ本件競落ハ有效ニシテ一面ニ於テハ債務者阿部勇五郎カ
通信大臣ノ許可ヲ得テ本件電話加入權ヲ競落人タル被告上告人ニ
移轉スル義務ヲ負ヒ其ノ許可ナキ間ニ五年ノ禁止期間經過スル
トキハ其ノ經過ト俱ニ本件電話加入權カ當然被告上告人ニ移轉ス
ヘキ效力ヲ生シ他ノ一面ニ於テハ被告上告人カ競落代金支拂ノ義
務ヲ負フノ效力ヲ生シタルモノト云ハサルヘカラスサレハ被告上
告人カ本件競落代金支拂ヒタルハ右支拂義務ノ履行ヲ爲シタ
ルニ他ナラス仍チ其ノ支拂ハレタル競落代金ハ賣主ノ地位ニ立
少阿部勇五郎ノ財產トナリタルモノニシテ其ノ配當ヲ受ケタル
上告人等ハ被告上告人ニ對シテ不當利得ヲ爲シタルモノト云フテ
得ス隨テ被告上告人カ右競賣ハ違法ナルカ故ニ右ノ配當ヲ受ケタ
ル上告人等ハ被告上告人ノ損失ニ因リ不當ニ利得シタルモノナリ
トシテ其ノ各配當金額及之ニ對スル本件訴訟送達ノ翌日以降ノ
利息ノ支拂ヲ求ムル被告上告人ノ本訴請求ノ理由ナキコト洵ニ明
白ナリト云フヘク第一、二審ノ判決カ被告上告人ハ競落ニ因リテ
本件電話加入權ヲ取得スル能ハス隨テ競落代金支拂ノ義務ヲ負
ハサリシモノナリトシテ右ノ配當ニ因リ不當利得ノ成立ヲ認メ
以テ被告上告人ノ本訴請求ヲ認容シタルハ失當ニシテ其ノ請求ハ
之ヲ排斥スヘキモノトス(同上)

◎移轉禁止期間中ノ電話讓渡又ハ差押(本卷(テ)電話至急
開通規則一六條)

ル上告人ハ該金額ノ全部ニ付請求權ヲ有スルモノナルモ抵當權者ハ其ノ請求權ノ上ニ權利ヲ行ヒ得ル關係ニ在リテ其ノ金額ノ多少ハ直ニ抵當權者ノ權利ニ影響スルヲ以テ兩名ニ對シテ之ヲ決定シタルモノト解スルヲ正當トス果シテ然ラハ土地所有者タル上告人カ其ノ決定金額ヲ僅少ニ過クト思惟シタルトキハ自己ノ有スル權利ノミニ基キ單獨ニテ司法裁判所ニ出訴シ其ノ増額ヲ請求スルコトヲ得ヘキ筋合ナルノミナラス土地所有者ヨリ訴ノ提起アリタル場合ニハ裁判所ハ取用審査會ノ決定シタル金額ヲ増加スヘキヤ否ヲ審査スルニ止マリ之ヲ減少スルモノニ非サレハ土地所有者タル上告人ノミカ出訴シタリトテ之カ爲ニ抵當權者ニ不利益ナル結果ヲ來スノ虞ナク又抵當權者ハ縱令取用審査會ノ決定金額ヲ過少ナル場合ト雖其ノ金額ニシテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルニ足ル以上司法裁判所ニ出訴スルノ必要ナキモノナレハ土地所有者ハ抵當權者ト共同スルニ非サレハ訴ヲ起スコトヲ得ストモハ土地所有者ハ往々ニシテ其ノ被レル損害ニ付完全ナル補償ヲ受クルノ途ヲ杜絶セラルルコトトナルヘキカ故ニ是レ等ノ點ヨリ考フルモ土地所有者タル上告人ハ抵當權者ニ關係ナク單獨ニテ訴ヲ起シ得ルモノト斷スルヲ正當トシ原審カ之ト異レル見解ノ下ニ上告人ノ本訴請求ヲ却下シタルハ違法ナリ(同上)

登録税法

第十九條
 ◎登録税ノ免除ニ關スル疑義
 自作農創設維持補助規則第六條第八號但書ニ依リ資金二百圓ヲ借受ケ價額七百圓ノ土地ヲ購入シ其所有權取得登記ノ申請アリタル場合ニ於テハ借入金ニ關スル部分カ他ノ土地ト區別シ得ルトキハ其部分ニ限リ登録税ヲ免除スヘキモ然ラサル場合ニ於テハ全部ニ付徵税スヘキモノトス(民事局長昭和三年民事六九七七號電報回答)

非訟事件手續法

第二十五條
 ◎抗告審ヘノ抗告ト期間算定ノ標準
 直接抗告裁判所ニ抗告狀ヲ差出シ抗告ノ申立ヲ爲シタル場合ニ於テモ抗告期間ハ不服ヲ申立ラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所ニ抗告ノ申立ヲ爲ス場合ト同一ノ期間ヲ遵守スヘキモノト解スルヲ相當トスルヲ以テ其里程ニ依ル猶豫期間モ抗告人ノ住所ト不服ヲ申立ラレタル裁判所ニ爲シタル裁判所所在地トノ距離ヲ標準トシテ算定スヘキモノトス(長崎控大正一〇年評諭一〇卷諸法

三六六頁)
 ◎代理人ノ爲ス抗告ト里程猶豫ノ標準(本卷「七」)非訟事件手續法二五條)

不動産登記法

第二十七條 ◎本條ニ所謂判決ノ意義

登記權利者及登記義務者カ連署シテ登記ヲ申請スヘキ場合ニ後者カ之ヲ肯セサル以上前者ハ後者ニ對シ意思ノ陳述ヲ爲スヘキ旨ノ訴ヲ提起シ以テ登記權利者ノミニテ登記ヲ申請スルノ外アルヘカラス不動産登記法第二十七條ハ畢竟民事訴訟法第七百三十六條ノ一適用ニ過キサルカ故ニ茲ニ所謂判決ハ意思ノ陳述ヲ爲スヘキ旨ヲ命スル給付判決タルコト云フ迄モ無シ然ルニ保存登記ハ元來權利者ノミニテ之ヲ申請スルヲ得ル性質ノモノナルト共ニ其ノ權利者ナルコトハ當該官吏ニ於テ比較的確實ニ之ヲ認メ得ルカ如キ方法ニ依リ之ヲ證明スヘキ必要アルハ勿論ナリ不動産登記法第五條第六條各號ノ規定ハ此ノ法意ニ出ルモノニ外ナラス從ヒテ同號中ノ所謂判決ハ所有權確認ノツレノミナラス原告ノ所有權者タルコトヲ肯定シ以テ登記義務者タル被

諸法令下 補遺 不動産登記法 二七條

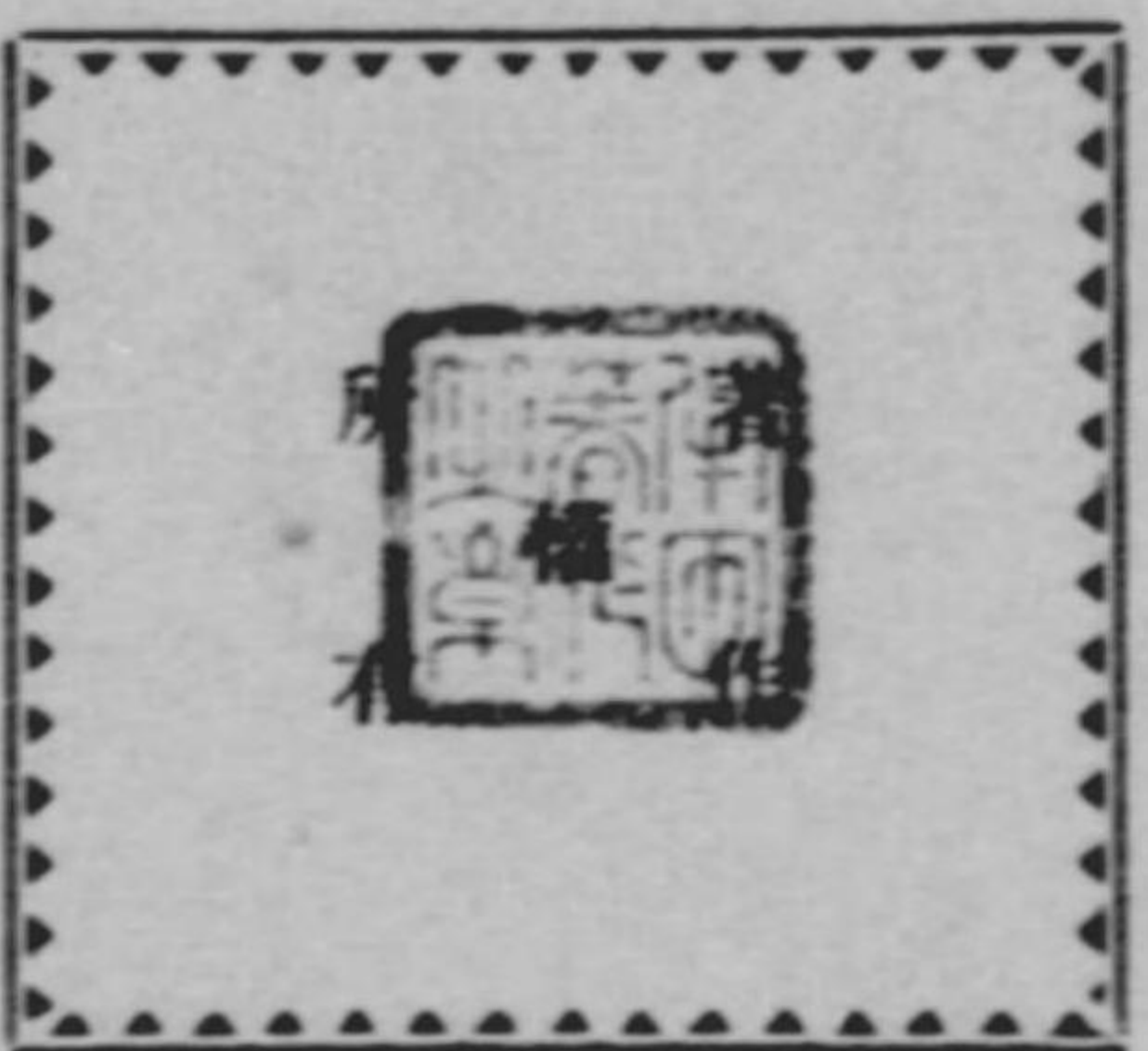
告ニ對シ登記ヲ爲スヘキコトヲ命スル給付判決ノ如キモ亦之ヲ包含スト解スルヲ相當トス(大審大正一五年民五三九頁)

第六十五條 ◎登記回復承認ノ請求ト登記義務者ノ權利

賃借權ノ登記ニ付テハ賃借人ハ登記權利者ニシテ賃借人ハ登記義務者ナレハ若シ賃借權ノ登記ニシテ抹消セラレタルコトアラシカ其回復ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者及ヒ登記義務者ノ地位ハ共ニ依然トシテ變更セサルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ通例登記ハ當事者即チ登記權利者ト登記義務者トノ申請ニ因リテ爲スヘキモノ(不動産登記法第二十五條第二十六條)ナレハ登記申請ノ權利ハ登記權利者ニ偏屬スルモノニアラスシテ當事者雙方ニ屬スルモノト謂ハサルヲ得ス然レハ則チ不動産登記法第六十五條ノ規定ニ依リ登記上利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シ登記回復ノ承認ヲ請求スヘキ場合ニ於テ登記義務者ハ登記權利者ト均シク請求ノ權利アルヘキコト自明ナルヘシ(大審四〇年民九二七頁)

補遺終

昭和四年三月二十五日印刷
昭和四年三月二十八日發行



判決總攬諸法令下卷

正價 金八

編輯者 名古屋市東區關設治町二丁目五番地 半田 鍵次郎

發行者 名古屋市東區關設治町二丁目五番地 半田 正一

印刷者 名古屋市東區關設治町二丁目五番地 判決例調査所印刷部 半田 賢一

發賣元

東京市本郷區
淺草町五〇

電話小石川六三六八番
振替東京二四八九九番

酒井書店

取次店

東京神田
一橋通町 有斐閣

東京神田
朝鮮京城 巖松堂

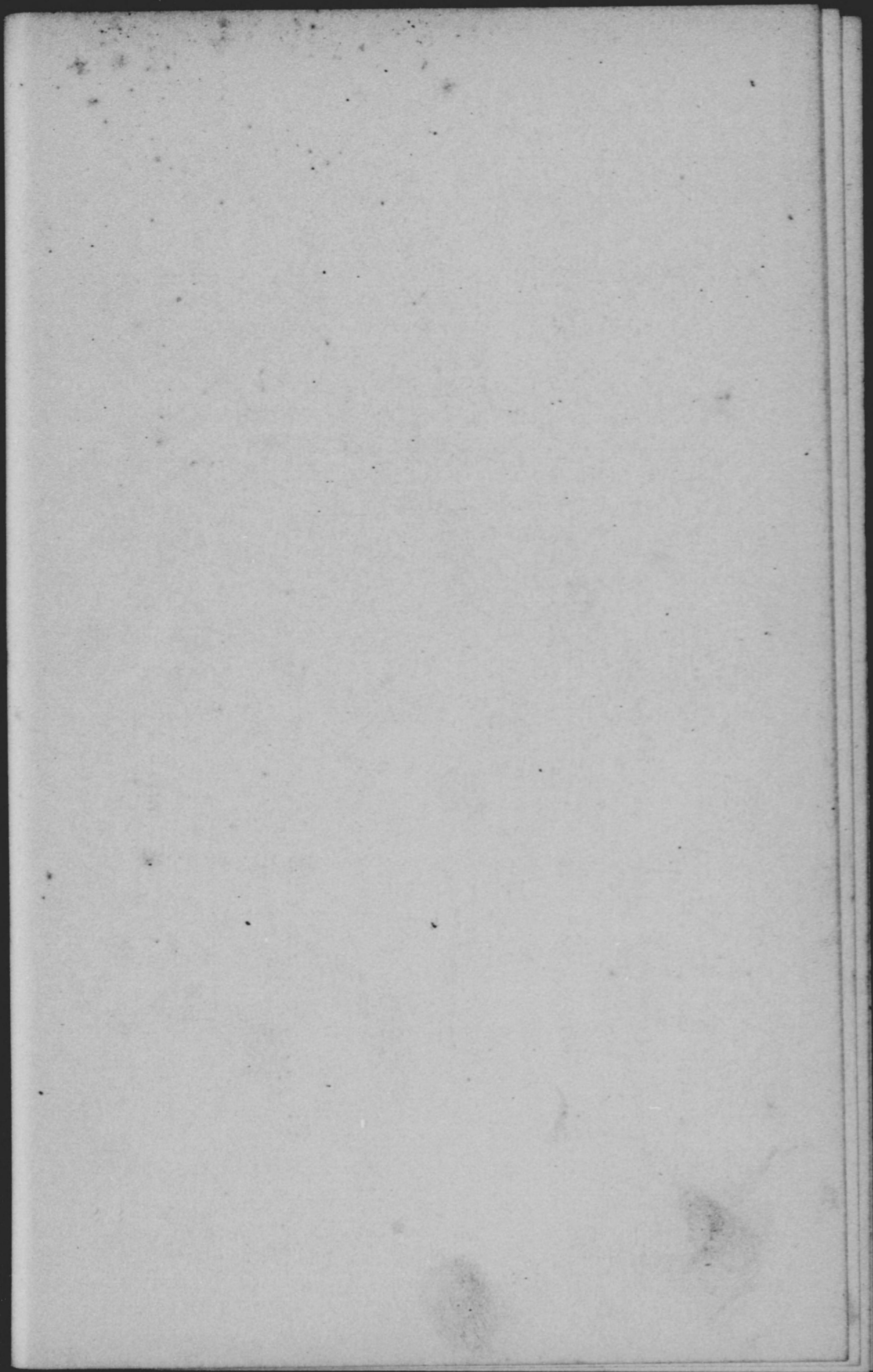
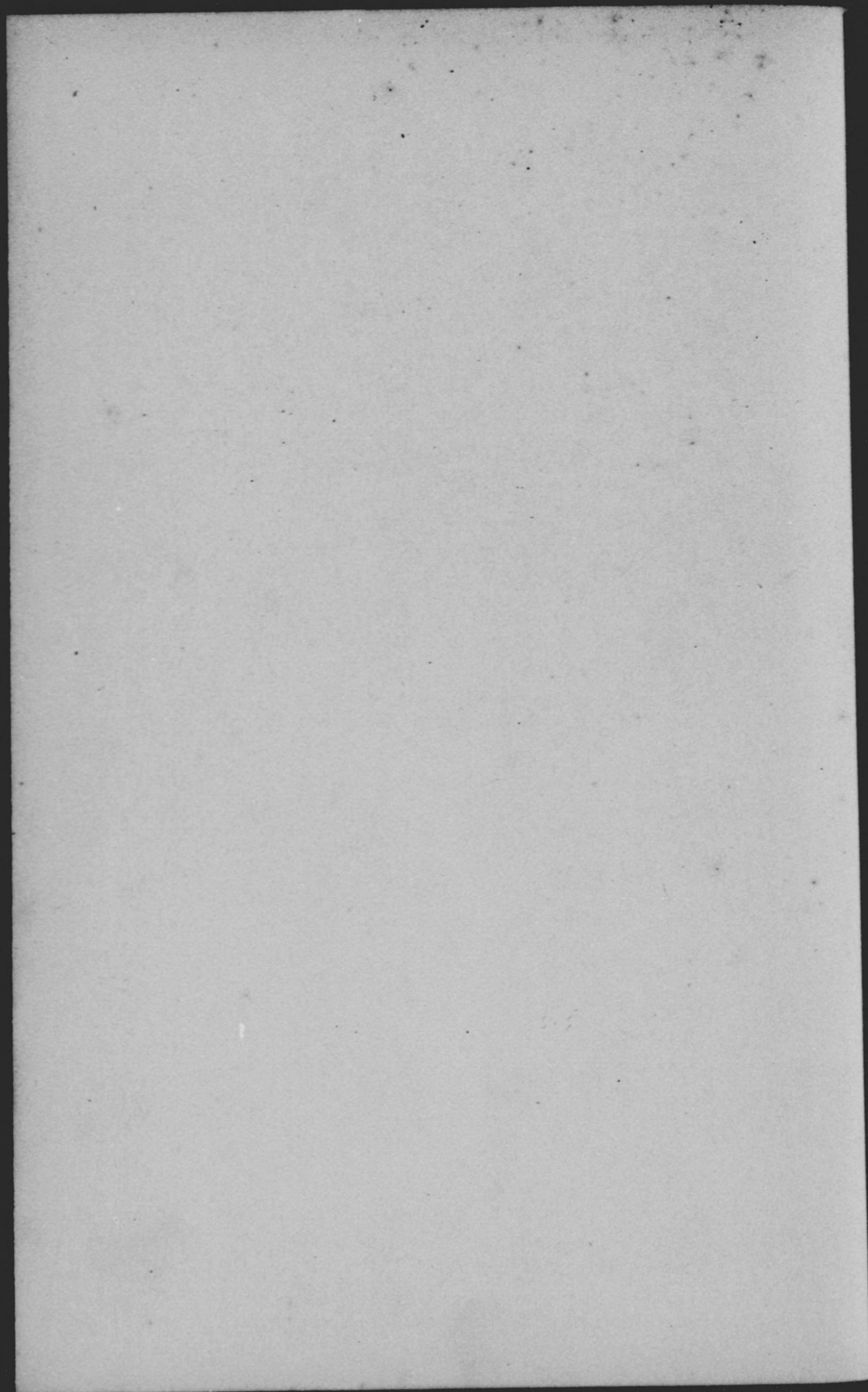
大阪北區
堂島中二 法政書房
大阪北區
曾根崎上三 大同書院

發行所

名古屋市中區
關設治町二丁目

電話名古屋(4)二一三一番
振替名古屋五九二番

判決例調査所



326

